

平成26年度文部省委託事業  
「自律的・組織的な学校運営体制の構築に向けた調査研究」事業

コミュニティ・スクール導入に伴う  
マネジメント力向上研修プログラム作成

# 報告書

別府市教育委員会  
～研修プログラム検討委員会～

平成27年3月

# 目 次

I	コミュニティ・スクール導入に伴うマネジメント力向上研修プログラム作成の概要	2
II	研修プログラム検討委員会での協議内容	5
III	マネジメント力向上研修プログラム	8
	1. 第1回教頭及びコミュニティ・スクール担当教員研修会	8
	2. 第2回コミュニティ・スクール推進委員研修会	12
	3. 第3回教職員及びコミュニティ・スクール推進委員合同研修会	17
IV	学校で実施する「コミュニティ・スクール推進委員会」の公開	26
V	コミュニティ・スクールに期待する学校（教職員）の意識調査	33

※以下、本文中は「コミュニティ・スクール」を「CS」で表記

※以下、本文中は「学校運営協議会（委員）」は、「CS推進委員（会）」で表記

# I コミュニティ・スクール導入に伴うマネジメント力向上研修プログラム作成の概要

## 1. 趣旨

別府市における近年の子育ての現状として、子どもを育てる家庭環境・地域住民の意識が十分とは言えない状況の中、下記の教育課題や教職員の意識の中で、学校教育に集中した教育を過度に期待している現状が伺える。よって、「地域の子どもは地域で育てる」という原点に立って現状を振り返り、学校・家庭・地域住民がそれぞれの役割を果たすとともに、互いに連携・協力して、CS導入による、質の高い学校づくりを目指すための研修を行う、教職員やCS推進委員等のマネジメント力の向上を図る。

### (1) 別府市における教育課題

#### ア. 学力向上及びキャリア教育の推進

→地域にある大学や住民の学習活動への支援、ボランティア活動への協力、職場体験の受け入れ・指導など、地域からの積極的な支援活動が望まれる。

#### イ. 「いじめ」「不登校」「問題行動」の解消

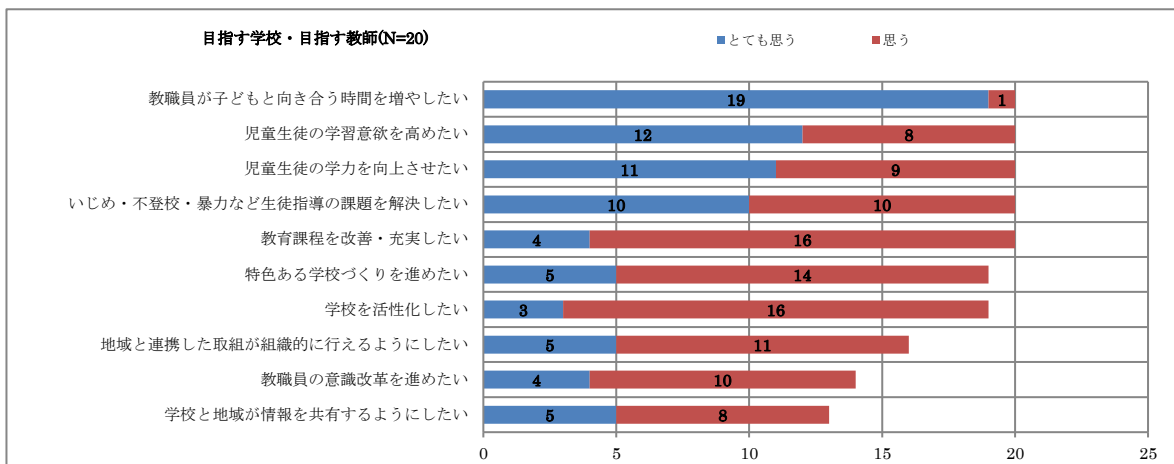
→家庭や地域において放課後や休日等の児童・生徒指導体制（システム）づくりや、年間を通した「安全・安心・環境浄化」の支援活動が望まれる。

#### ウ. コミュニケーション能力と体力の向上

→家庭や地域において日常的なコミュニケーションを図ることや、部活動・保健体育科授業への専門的指導者による支援活動が求められる。

### (2) 教職員の意識

地域からの活動支援の効果などを十分に経験していない教職員が多い。「教職員」という立場上「まずは、自分たちがしなければ・・・」という使命感と、「子どもたちのためには、保護者にもお願いしたいことが・・・」という保護者や住民への願いの間に立って悩んでいる。目指す学校の姿、日常的な教育活動についてこれからどうすればいいのか、どうしなければならないのか悩んでいるのが学校の現状である。



## 2. 主催 別府市教育委員会

## 3. 担当課 学校教育課、教育総務課、生涯学習課

#### 4. 研修プログラムの概要

##### (1) 研修の観点

別府市における教育課題において、学校が担う教育課題に関して、教育の協働による課題解決に向けたCSの立ち上げと運営に関する研修を行う。

##### (2) 研修会の計画

###### ア. 教頭及びCS担当等の教職員研修

CS導入のための学校の役割の基礎的な研修を行うとともに、運営に関するマネジメント力の観点に関する研修を行う。

###### イ. CS推進委員研修

CS導入のためのCS推進委員の役割の基礎的な研修を行うとともにPDCAサイクルにおける運営への関わり（マネジメント力）に関する研修を行う。

###### ウ. 教職員及びCS推進委員合同研修

学校運営におけるPDCAサイクルの中での教職員とCS推進委員との連携・協働に関した熟議を中心とした研修を行う。

###### エ. 学校で実施する「CS推進委員会」の公開

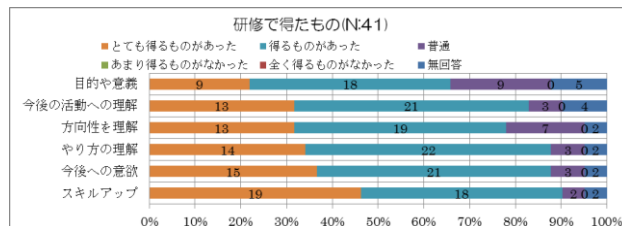
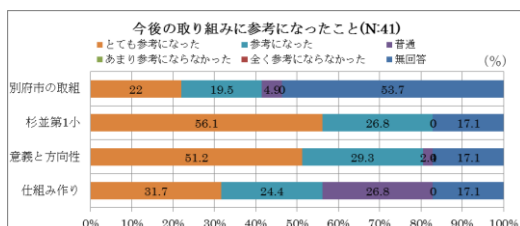
CSにおける「CS推進委員会」（熟議）を公開し、他校の教職員及びCS推進委員の研修の場とする。

#### 5. 平成25年度研修事業の概要

別府市で、平成25年度から3年計画で、全ての小中学校をCSに指定して、地域の教育力を活用して、家庭・学校・地域が一体なって子育てをする街づくりの取組を始めるために様々な研修を実施している。ここでは、平成25年度に文部科学省事業「学校と地域の新たな協働体制の構築のための実証研究」を、NPO法人大分県「協育」アドバイザーネットが受託して、別府市立小中学校教職員、及び地域関係者等を対象に、講義と熟議を構成して2回の研修会を開催し、今後取組むCSへの前段としての「教育の協働」の意義や推進する仕組みづくり等に関する基本的な研修会でのアンケートを紹介する。

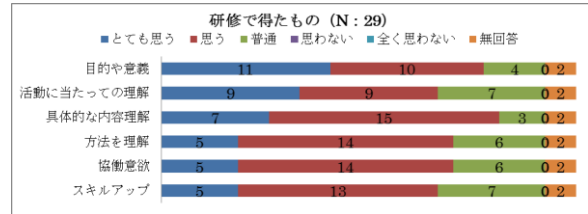
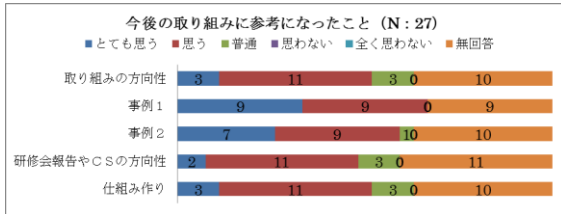
##### (1) 第1回研修会アンケート※平成25年12月5日（木）9：20～16：00

第1回コーディネーター研修会の参加者は研修者68名事務局11名の合計79名であった。特に教職員がもっとも多く38名で、そのうちアンケートを回収出来た数が41名である。



##### (2) 第2回研修会アンケート※平成26年2月2日（水）9：20～16：00

第2回コーディネーター研修会の参加者は、研修者41名、事務局・講師12名の合計53名であり、29名から回答を得た。そのうち教職員が48%と半数近くである。



2回目の研修でのグループごとの熟議をとおした最終提案は次の通りであった。

<課題1 いじめ・不登校・暴力等の生徒指導の課題を解決する>

プログラム内容 = 「学校からの通信を全戸配布する」 =

子どもたちの現状・課題を学校だけで留めるのではなく、地域の人達に広報することによって学校理解・子どもの現状理解を進めることが、地域と学校がともに子どもに関わる出発点であることを踏まえたプログラムを提案した。

<課題2 学校と地域が連携して児童生徒の学習意欲を高める>

プログラム内容 = 親子の繋がりを広める活動をする =

学習意欲は学力の向上のみならず自尊感情や自己肯定感につながり、自分で考え・自分で判断し・自分で学ぶことの基本である。この学ぶ意欲を向上させるためのプログラムを提案した。

<課題3 地域が学校に協力的になるための情報の共有を進める>

プログラム内容 = 情報の一元化を進める =

学校の情報を知らない保護者・地域・住民、地域の情報を知らない学校・保護者・地域住民、家庭（個人情報保護を前提）を知らない学校・地域住民の中で育てられている子どもたちであり、その中での課題を学校・家庭・地域住民が共有できる訳がないであろう。それぞれの情報をテーブルに乗せて学校が出来ること、家庭が出来ること、地域が出来ることを共有することによって、様々な角度から子どもを育てる地域が出来る。そのための情報の共有・提供のシステムを提案した。

## II 研修プログラム検討委員会での協議内容

研修プログラム作成のため、教職員、CS推進委員、NPO法人、地域活動者に学識経験者を含めて、必要な研修内容の洗い出しと、研修プログラムの作成について検討を行った。その結果、CS導入に関する現状及び必要な研修内容を以下のように整理した。

### 1. 行政として対応して欲しいこと

#### (1) 地域組織等への周知に関すること

ア. 子どもにかかわる各種団体がCSの取組に関することを知らないことや地域組織の上部機関が縦割りのために、学校からお願いしても支援要請がまだ困難な現状である。

イ. CSをより推進するためには、青少年育成協議会や社会福祉協議会等に周知して欲しい。

→行政として組織の長へ周知し、学校への支援を要請して欲しい。

例：青少年育成協議会、社会福祉協議会、児童民生委員会、老人クラブ、商工会議所、自治会、社会教育関係団体、退職校長会、公民館等

ウ. 地域の民間事業や郵便局、警察、大学や高校等の機関へのお願いはどうすれば。

エ. 自治振興課、児童家庭課、福祉部などたくさんの方を呼んで一緒に研修をする必要があるのではないか。チラシの回覧などでもよいので、たくさんの方の目につくようにする。

#### (2) 現状及び行政の方針に関すること

ア. 公民館のコーディネーターの活用が本年度は難しくなっている。公民館の位置づけはどうなっており、今後コーディネーターはどんな関係になるのか。

イ. 実践している学校の中のCS推進委員が、出向いてもらって各学校に説明はできないか。生の声を聞きたい。

ウ. CS推進委員を校長が人選しているので、校長への働きかけ、研修はどうするのか。

エ. マッチングの調整をするコーディネーターが重要。その際、CS推進委員会のコーディネートを誰がするのも問題。今は教員が推進役だが、立ち上がったなら地域の方で動かせないか。

オ. 問題（謝金、コーディネート等）をきちんと整理することが大事。

カ. 人材は誰が見つかるのか。CS推進委員会のメンバーなど根本の部分はどうかならないと難しい。

### 2. 推進する上での課題

#### (1) 学校として抱えている推進上の課題と現状

##### ア. 教職員に関すること

(ア) 個別の指導が必要な子どもに対して、外部の人が入る時に十分に理解して、関わり方に共通理解する必要がある。

(イ) 一般PTA会員も意識は低く、実働部隊を作っていきたいが人選が難しい。校

- 内での体制を広げていく必要がある。
- (ウ) 地域の中には、「先生が楽するだけ！」といった声もあり厳しい部分がある。理想は良いが、時間がかかるのかなと思う。
  - (エ) 地域に受け入れられるのは難しい。夏祭りに参加をすると子どもたちにとってはプラスになるが、教師の負担は増える。
  - (オ) 学校は困っているが、学力の問題など地域に頼むものではなく学校の役割だ！と皆さんが思っている。
  - (カ) 地域の方に今の学校（おはし、トイレの使い方、タバコ、授業にならない等）を見に来て欲しい。
  - (キ) 研修の必要性やCSの良さが分かっていないのでCSは負担と思う。
  - (ク) 打合せ時間、日時調整の問題が出てきており、それをやるコーディネーターが必要だが謝金の予算が見えない。

#### イ. CS推進委員に関すること

- (ア) 学校からCS推進委員が中心になって進めて欲しいとは言いにくい。
- (イ) 学校評議員から引き続きなので、意見を言うばかりのCS推進委員会になってしまっている。
- (ウ) 課題は分かっているけど、実働していくまでは考えていない。バラバラに考えている。

#### (2) 推進する上での関係者としての課題

- ア. CSに参加することで、子どもたちに元気がもらえ、子どもたちが大好きになった。半面、教師の負担増になるのではないかな。
- イ. 先生たちには学力、スポーツ、芸術など子どもたちの才能を伸ばすことだけに力を入れて欲しい。あとのことは私たちに任せてというような体制を作りたい。
- ウ. 学校の問題で地域が協力できるものを挙げていく方向であり、地域の協力は大きいけど、もっと多くと言ったら地域の方がどういう反応をするのか心配。
- エ. 地域団体が作成した活動プログラムをいかに活用していただくかといった継続的な仕組みを作れたらいいな。
- オ. 声を掛けていない人（郵便やさん、犬の散歩、歯医者）に声を掛けていこう。
- カ. ハードルが高いと教員は大変。地域の核になる人と教員の両方の研修が大事。時間をかけながら、汗をかいてくれる人を探していく。
- キ. 年度当初、校長の方針を受けるだけで、学校課題について熟議はできていない。

#### (3) 必要な研修内容

- ア. 学校内の研修方法として、1回目は先生たちだけで熟議、2回目からCS推進委員会で熟議、以降はCS推進委員会から学校に返していく、等の計画が必要である。
- イ. CS推進委員会のメンバーの意識を高めて、「ここではこういうことをしなくてはいけない」ということを理解して欲しい。
- ウ. 今までの支援者や仕組み以外にどう考えていくのか。誰がイニシアチブをとるのか。
- エ. 需要と供給が合っていない。良いことを伝えていくことが大事である。
- オ. 実践している学校の生の声を聞きたい。

カ. ひとつの事業を取り上げて、どうして必要だったのか。どこで打ち合わせをし、どんな声かけをしたか、どう行い、どうなったのかが分かりたい。

#### (4) プログラム作成の方向性

ア. 先生たちが持っている課題の共有がCSの原点であり、現状はバラバラに活動している。

イ. 「親育」も苦勞している。地域の教育力を活用できないかと考えるのがCSと学校地域支援本部の違い。協働するためには、学校の課題が明確にされない限り、CS推進委員会は動くことが難しい。

ウ. 学校地域支援事業は課題が見えなくても、「ミシンの手が足りないから来て」「遠足が危ないから来て！」という、その場に手が欲しい時に対応している。CSは学校だけではできないことを明確にして地域住民の願いを含めて進めることが大切だ。

エ. 先生の負担にならないように、地域の人が「学校が困ってるよ」と地域に言えばいい。それがCS推進委員の大きな役割である。

オ. CS推進委員会が熟議をし、協働してマネジメントしていくコーディネート力が必要。CS推進委員会と公民館がどうつながるかが今後の大きな課題で、研修の中に入れていく。

カ. 住民の願いを伝え、ともに育てていく学校支援のマネジメントがCS推進委員会の役割。学校に意見を言うだけのCS推進委員会になってはいけない。

キ. CS推進委員会のメンバーの人選が大事。CS推進委員会は住民の願いを伝え、学校の願いを聞き、ともに子育てをしていくのがCSである。まず、学校教育課題を明確にしないといけない。

ク. CS推進委員会は何を学ぶのか、どんな研修をするのか、どんな方法であればいいのか、学校課題を解決するためにどんな取組をすればいいのか、の研修が必要である。

ケ. 地域の課題にするために、CS推進委員会で熟議をしていく研修が必要である。

コ. 豊かな教育活動をするためにスポット的な支援者を紹介するのが公民館。課題を持って継続的な支援していくのがCS。勉強を教えるのは学校の仕事。食べる・育てるは保護者や地域の仕事。と、トータル的に考えていく必要がある。

サ. 関わりのなかった人も組織的に起こしていくのがCS推進委員会の役割としっかりと理解してもらう必要がある。

シ. 重要なことは、教員の意識改革である。

ス. CSはCheck（評価）から始め、Act（改善）方法を考え、次年度の教育課程に入れてPlan（計画）が出来て、Do（実施）する流れが必要で、それによってPDCAサイクルが回り出す。

以上のように意見を整理して研修プログラムを作成し、実践し、アンケートをもとにして研修プログラムを見直すこととした。

「Ⅲ マネジメント力向上研修プログラム」の紹介において詳細を報告する。



### Ⅲ マネジメント力向上研修プログラム

C Sの導入を見通した研修では、これまでの研修会のアンケートから大きな成果と求められる研修が整理されており、本マネジメント力向上研修会では、具体的な方策に関しての研修内容が求められると考えている。

#### 1. 第1回教頭及びコミュニティ・スクール担当教員研修会

##### (1) 趣旨

C S導入のための学校の役割の基礎的な研修を行うことを通して、C Sの運営に関するマネジメント力向上に関する研修を行う。

##### (2) 研修内容

###### ア. C Sの必要性と効果に関する研修（なぜC Sなの）

(ア) 教員だけでは解決が困難な教育課題に関してどう取り組んでいくのかに絞ることが効果に繋がる。

(イ) 教育課程の中にC Sの取組む教育内容をどう取り入れていくか。←学校の教育課題＝意識調査

###### イ. C Sの取組の効果を上げる（C Sの目的に向けた運営）ための研修

(ア) 学校教育としての課題の明確化とC Sとしての取組を一体化する運営方法はどうするか

(イ) 子どもの教育課題に対して学校教育の役割を果たすための協働した教育活動をどう作っていくか。

(ウ) 学校教育が担う教育活動として関わる課題なのか等の分析をどうするか。→学校の多忙化の中、保護者や地域社会の教育力の低下からの学校教育への依存等

(エ) そのためのC S組織はどうあればいいか。

###### ウ. C S推進委員の人選

(ア) C S推進委員の役割から、どんな人材が必要なのか。

(イ) C S推進委員の意識を高めて、どう委員の役割を理解してもらうか。

※C S推進委員自身が、選任された立場や地域への思いの活動をより充実するための委員であることを理解することができる必要がある。

###### エ. コーディネーターの役割とコーディネートシステム（提案型コーディネートの有効性）

(ア) マッチングを効果的に行うためには、コーディネーターというイメージよりもコーディネートを誰がするのかと考えればケースバイケースになり様々な人になるが、そのコーディネートの組織づくりをどうするのか。

###### オ. 学校内の研修方法について

(ア) 1回目は先生たちだけで熟議、2回目からC S推進委員会で熟議、3回目はC S推進委員から学校に返していく熟議、等の計画と委員会の進め方はどうあればよいか。

(イ) 学校ごとに熟議をする。前年度2月にCheckしてActする等のPDCAサイクルを明確にすれば次年度から有効に働くと考えられる。

(ウ) C Sの必要性というのが大前提なので、様々なデータを使って自分の学校での研修やC S推進委員会で使う必要がある。

※CS推進委員の人選の問題、コーディネーター（コーディネートシステム）の問題、組織の問題をトータル的に整理する必要がある。

### (3) 研修概要

ア. 日時：平成26年8月27日（水）13:30～16:30

イ. 対象：各CS教頭及び担当教員2名（参加者43名）

ウ. 会場：別府市水道局大会議室

エ. 講師：特定非営利活動法人スクール・アドバイス・ネットワーク

理事長 生重 幸恵 氏

大分大学高等教育開発センター

教授 中川 忠宣 氏

### (4) 研修プログラム

ア. 研修1：CSの意義と運営方策（講義）

#### (ア) 内容

文部科学省のCS導入の意図を探りながら、学校現場におけるCSの意義と運営上の課題への対応の現状について学ぶ。

#### (イ) 講師

特定非営利活動法人スクール・アドバイス・ネットワーク

理事長 生重 幸恵 氏

#### (ウ) 研修内容

- ①今、なぜ、CSなのか
- ②実践からみるCSの必要性和効果について
- ③CSの効果を上げるための運営について
  - (1)学校教育課題の共有
  - (2)学校の役割とCS推進委員の役割
  - (3)CS推進委員として必要な人材

イ. 研修2：『学校教育活動のすき間』への地域の教育力の活用を考えよう（熟議）

#### (ア) 内容

学校が抱える課題を明らかにして、教職員のみでの対応が困難な教育課題について、PDCAサイクルでの取組を想定して熟議を行う。

#### (イ) 講師

マネージャー：特定非営利活動法人スクール・アドバイス・ネットワーク

理事長 生重 幸恵 氏

サブマネージャー：大分大学高等教育開発センター

教授 中川 忠宣 氏

#### (ウ) 研修内容

- ①テーマ：学校の教育課題への対応（P）と学校が欲しい地域の教育力（D）
- ②講義：CSを導入する前提に関する考え方を説明する。（中川）

※プレゼン資料

#### ③全体演習（中川・生重）

(1)「教職員としての教育活動の願い」を整理する

- アンケートの表について、各自で「願い」と「協働」の必要性を記入する
- 項目ごとに、クリッカーを使った意識の集計をする（15項目）

※集計された項目ごとに、生重マネージャーがコメントする

○これまでの調査データと比べてみる

#### ④グループ演習（中川・生重）

(1)「今の子どもの気になる姿（課題）」の表に、対応者について各自が仕分けしたラベルを貼る

(2)グループテーマについて、次の順序で熟議をする

＝ 1クール＝

○ 2年目のCS推進委員会から、取組の事例を報告する

○ 報告された事例の充実、改善、新たな取組を自由に出し合う

○ グループとして、実践に向けた取組を1～2つ決めて方法、課題・準備等を協議する → 模造紙の上に取組を書く

・ 協議の意見を、記録係が大きな付箋に箇条書きする

・ 模造紙に、内容毎にグルーピングする→見出しをつける

○ 報告する

・ テーマ、具体的な取組、懸案事項等を5分以内で報告する

※生重マネージャーがコメントする

＝ 2クール＝ テーマ：想定される子どもや学校への効果と課題（C・A）

＝ 3クール＝ テーマ：PDCAサイクルを運営するシステム

#### ⑤講義：全国調査から見る効果と考察（中川・生重）

※プレゼン資料

#### ⑥まとめ（中川・生重）

学校運営のPDCAサイクルと、CS推進委員の役割

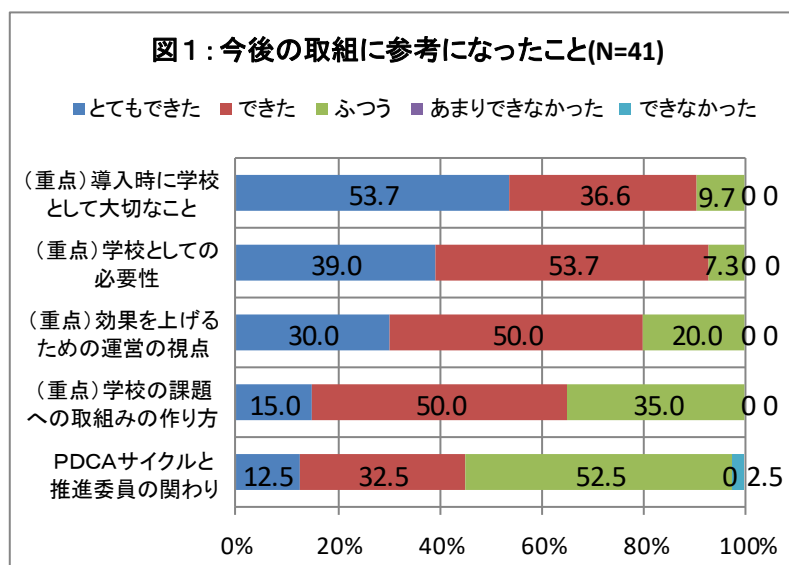
### (5) 研修に関する意識調査の概要

第1回は各学校の担当教員及び管理職を対象に実施した。研修内容については、研修プログラム検討委員が検討しながら、4回にわたる研修内容を整理し、教職員対象の研修に必要なプログラムを組立てたものである。

#### ア. 「これまで気づかなかった等、今後の取組に参考になったこと」

図1は、これまで気づかなかった等、今後の取組に参考になったことについて示したものである。

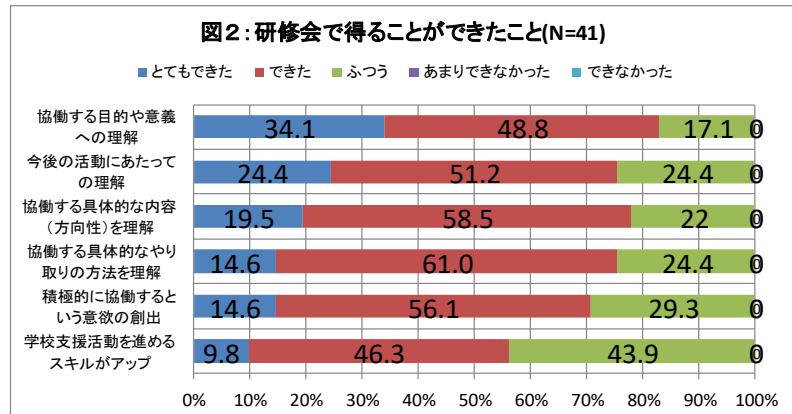
「考え方」「CSの趣旨」等の視点については80%以上が「学べた」と回答している。しかし、CSとしての取組に関する内容については、研修内容が不十分であったことがわかるため、今後の研



修会の内容に取り上げていく必要がある。特に、簡単に扱ったために理解が低い「P D C Aサイクルがどう流れるのか」に関する研修は必ず実施する必要がある。

## イ. 「この研修に参加して得ることができたこと」

図2は、研修会で得たことについて示したものである。この図からも、CSの趣旨や方向性に関する理解が80%前後と高いことがわかる。しかし、自分自身の意識の問題、スキルアップに関することは不十分であり、そうした研修をどう実施していくかが課題である。



## ウ. その他の感想・意見

### (ア) 今後の研修会で実施して欲しい内容

#### ① CSを運営していくための研修内容

- (1) できた組織を使ってどう動かしていくか、話し合う時間をどう持つか等の運営方法を研修したい。
- (2) CSの効果をあげるための運営についての研修を深めたい。
- (3) CSの具体的な全ての流れを研修したい。
- (4) 新しい取組をするためのノウハウ。動かない人を動かすためのノウハウを研修して欲しい。
- (5) 具体的に取り組んだ事例、トラブルがあった時の対応、時間の捻出の仕方、人材確保の仕方について研修したい。
- (6) 別府の推進先進校の話を知りたい。

#### ② CS推進委員に関する研修内容

- (1) CS推進委員の選任の仕方について研修したい。(委員さんの人選が大事だとおっしゃられていたが、委員を受けてもらうのさ大変な苦労がある。)
- (2) CS推進委員さんの意識改革(づくり)を進めるために大切なことを研修したい。
- (3) CS推進委員の方がやるべきことは何なのかということが理解できる研修をしたい。
- (4) CS推進委員会(目標協働達成チーム)での熟議の様子を具体的に知りたい。
- (5) 「一緒に子どもを育てる」という視点を持つための学校理解という項目を設けて、今の学校現場の大変さ問題点を教えて欲しい。

### (イ) 研修会からの感想

- ① やる気のあるメンバーで行動に移すことが大切であり、まず取り組むことだと感じた。
- ② CSが本格的に動き出すのは大きな力が必要となるが効果は期待できると感じ

た。

- ③CSで取組む内容は今現状で行われていることを広げていけばいいと感じた。
- ④CSによって教師が安心して仕事にやりがいを持てるような取組を考えていければと思う。
- ⑤CSで何ができるか、どう取組むのか、まだ模索している中で少し先が見えた気がした。
- ⑥推進する人たちだけの研修ではなくて、教職員全員に研修して共通の思いで進めていかないと、推進する人だけが過重負担となると感じた。
- ⑦CSは最初の第一歩が大切。委員を選ぶ際は人選を間違えないことが重要と感じた。
- ⑧生重先生のように熱く語ってくれる講師の方に学校の学習会に来て欲しい。
- ⑨今回のような具体的な演習が良かったです。

## エ. アンケート調査から考える

第1回研修会の参加者は各学校でのCSを推進する立場の教職員であり、参加した教職員がそれぞれの学校で、自校の教職員やCS推進委員へどこまで伝達し、各学校で活かしていけるかということが課題である。形を作っても魂が入らなければ成果が見えず、「多忙化」以外の何物でもない。消滅するCSであり、そうした例も全国にもあるようである。

## 2. 第2回コミュニティ・スクール推進委員研修会

### (1) 趣旨

CS導入のためのCS推進委員の役割の基礎的な研修を行うとともに、PDCAサイクルにおける運営への関わり（マネジメント力）に関する研修を行う。

### (2) 研修内容

#### ア. 教育課程の理解を図るための研修

- (ア) 教科、道徳、特別活動、総合学習等で構成されていることを理解してもらう。
- (イ) 各種領域で教育活動が行われていることを理解してもらう。
- (ウ) 特別支援教育や生徒指導の現状を理解してもらう。
  - 特別支援教育が必要な子どもへの理解が必要であり、人権的な視野に立った支援者を求めたい。
  - 問題行動等の子どもが多いという学校の現状を知り、どの子にも権利があることを理解して欲しい。
  - 地域の人たちがこういう子どもたちがいることを理解したうえで、保護者を支援するという学校づくり、地域づくりをしていかななくてはならない。

#### イ. CS推進委員の役割とそれを動かすシステム化（組織化）

- (ア) 学校教育が担っている教育活動が、学校だけの課題なのか等の分析をどうするか。 →学校の多忙化の現状、保護者や地域社会が担うことはないのか 等
- (イ) CSの取組は「課題の共有」から始まり、「運営方針の承認」→「実践」→「評価」→「改善の提案」であり、そのためのCS推進委員の役割とそれを動かすシステム（組織化）をどう作っていくか。

(ウ) CSの取組及びCS推進委員会の中のコーディネートシステムをどう作るか。  
※CS推進委員自身が、選任された立場や地域への思いの活動をより充実するための委員であることを理解することが必要である。

(エ) CSは、CS推進委員が住民の願いを学校へ伝え、学校の願いを聞き、ともに子育てをしていくのが目的であるので、学校教育課題をCS推進委員とどう共有するか。

#### ウ. CSの推進組織におけるPTAの役割

(ア) CSの組織の中にPTAの役割をどう位置付けるか。

(イ) 家庭教育がベースであり、親の教育(親育)が必要であることを全てのテーマの中にどう位置付けるか。

#### エ. 地域の資源が教育資源であることの気づきと広がり的手段

(ア) CSを通して、地域が親に関わり、子どもに関わるという取組をどう作るか。

(イ) 声を掛けていない人(郵便配達、犬の散歩、地域の企業等)に、何のために、どう声をかけるか。

(ウ) 関わりのなかった人を組織的に起こしていくのがCS推進委員の役割であることを理解してもらう。

#### オ. 学校教育活動への支援マニュアルの作成

(ア) CS推進委員は地域の声、地域の代表として、マナー・ルールなど様々な視点から、地域住民の関わり方について整備しておく必要がある。

(イ) 地域住民が学校に入っていく際の自覚やマナー・ルール等のマニュアル作りの熟議はどうすればよいか。

### (3) 研修概要

ア. 日時：平成26年10月28日(火) 13:30～16:30

イ. 対象：各CS推進委員3名(参加者42名)

ウ. 会場：別府市役所5階大会議室

エ. 講師：特定非営利活動法人スクール・アドバイス・ネットワーク

理事長 生重 幸恵 氏

特定非営利活動法人スクール・アドバイス・ネットワーク

副理事長 井上 尚子 氏

※グループファシリテーター：別府市教育委員会

NPO法人大分県「協育」アドバイザーネット

### (4) 研修プログラム

ア. 研修1：CS推進委員の役割(講義)

(ア) 内容：CSを推進するためのCS推進委員の役割と動かすためのシステムやPTAの役割について学ぶ。

(イ) 講師：特定非営利活動法人スクール・アドバイス・ネットワーク

理事長 生重 幸恵 氏

(ウ) 研修内容

①CSを推進するためのCS推進委員の役割と動かすためのシステムは？

(1)学校教育とは

○学校教育と教育課程について

心身ともに健康な子どもの育成を行う教育活動

○ **全ての子どもが在籍する義務教育の現状**

特別支援教育が必要、学ぶ環境（生活する環境）が家庭にない、人間関係がうまく持てない等の児童生徒



CSとしての教育活動の推進

② **CS推進委員の役割とそれを動かすシステム化（組織化）**

- (1) 学校教育が担っている教育活動が学校だけの課題なのか等の分析をどうするか。
- (2) CSの取組は「課題の共有」から始まり、「運営方針の承認」→「実践」→「評価」→「改善の提案」であり、そのためのCS推進委員の役割とそれを動かすシステム（組織化）をどう作っていくか。
- (3) CS及びCS推進委員会の中のコーディネートシステムをどう作るか。
- (4) 評議員から引き続きなので意見を言うCS推進委員会という現状をどう変えるか。
- (5) 課題は分かっているが「実働する」までの考えがない現状をどう変えるか。
- (6) CSは、CS推進委員が住民の願いを学校へ伝え、学校の願いを聞き、共に子育てをしていくのが目的であるので、学校教育課題をCS推進委員とどう共有するか。

③ **CSの推進組織におけるPTAの役割**

- (1) CSの組織の中にPTAの役割をどう位置付けるか。
- (2) 家庭教育がベースであり、親の教育（親育）が必要であることを全てのテーマの中にどう位置付けるか。

④ **終わりに**

重要：行政とともに「学校教育活動への支援マニュアル」の作成

CS推進委員は地域の声、地域の代表として、マナー・ルールなど様々な視点から、地域住民の関わり方について整備しておく必要がある。

イ. **研修2：学校教育の課題に対応する地域の教育資源（人・文化・産業等）を探そう（熟議）**

(ア) **内容**：日頃気付かない、地域の人・文化・産業等が教育資源であることに気づき、CSとしてどう広げていくかの熟議を行う。

(イ) **講師**：特定非営利活動法人スクール・アドバイス・ネットワーク

理事長 生重 幸恵 氏

副理事長 井上 尚子 氏

※グループファシリテーター：別府市教育委員会

NPO法人大分県「協育」アドバイザーネット

(ウ) **研修内容**

① **地域資源の発掘方法に関するテーマ設定と熟議の手順を説明する**

課題1：CSを通して、地域が親に関わり、子どもに関わるという取組をどう作るか。

課題2：声を掛けていない人（郵便配達、犬の散歩、地域の企業等）に、何の

ために、どう声をかけるか。

課題3：関わりのなかった人を組織的に起こしていくCS推進委員の活動を考える。

## ②熟議の流れ

＝1クール＝

各自で自分の周辺にはどのような教育資源があるのか、人・有形のもの・無形のもの等、様々な観点から独自で考え、点線の四角内に書き込んでみましょう。 ※配布したシートを使用する

＝2クール＝

グループで「自分の地域の魅力はこれ！」を考えてみましょう

＝3クール＝

地域とのつながりをもつことは、地域をよく知るコーディネーターだからこそできることです。グループで「つながりをもつためにどのようにすべきか」を考えてみましょう。(資料：資源探しシート使用)

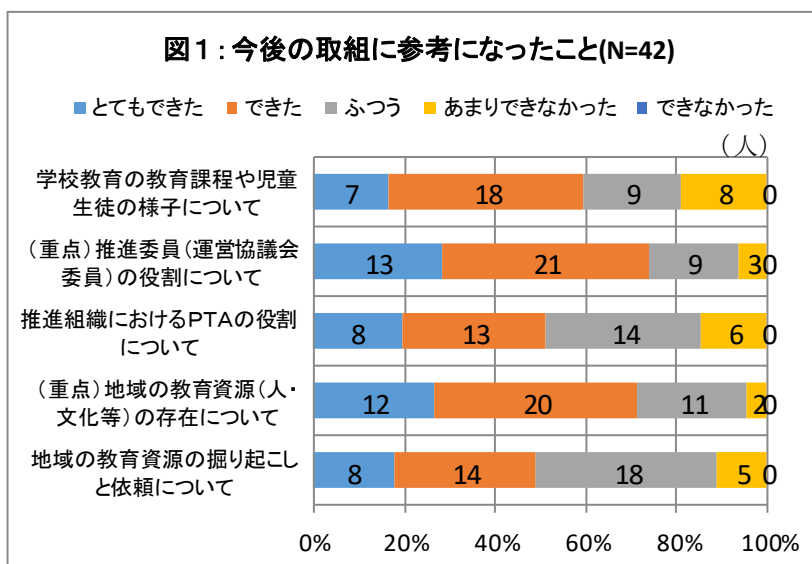
## (5) 研修に関する意識調査の概要

第2回は各学校のCS推進委員を対象に実施した。研修内容については、研修プログラム検討委員が検討しながら整理した、CS推進委員の研修に必要なプログラムを組み立てたものである。内容としては、学校教育に直接関わっていない地域の方(CS推進委員)が学校教育を理解し、その上でCS推進委員としての役割を理解する基礎的な内容を組み立てた。

### ア.「これまで気づけなかった等、今後の取組に参考になったこと」

図1は「これまで気づけなかった」等、今後の取組に参考になったことについて示したものである。

重点を置いた2つの内容は、7割以上の参加者に有効であった。その他の内容も、5割の参加者にとって有効であったことがわかる。



学校教育の現場を知らないことや「学校と地域の協働」に関する研修機会がなかったために、初めて聞くことが多くて「そうだったのか!」という感想が多くあった反面、「よく分からなかった」という感想もある。CS推進委員としての具体的な活動がイメージできていない現状での研修内容であり、今後、各学校において具体的な協議を行う中で、様々な疑問が出てくることが考えられる。

### イ.「この研修に参加して得ることができたこと」



図2は、研修会で得たことについて示したものである。

全ての内容について6割程度の参加者に有効であった。これまでにこうした研修を受けることがほとんどなかった参加者を対象にした本研修で、6割の参加者が「得るものがあった」と回答していることは、今後

の各学校のCSの取組の基礎を習得していただくことができたと考える。取組の内容、意欲、スキルの面におけるこうした学びをしたCS推進委員が、各学校のCS推進委員会を充実していくことを願っている。

#### ウ. その他の感想・意見

##### (ア) 今後の研修会で取り上げて欲しい内容

- ①今回研修したテーマについて、分科会形式で話し合えるように時間をとって欲しい。
- ②市内で実際に地域での取組についている実態があれば教えて欲しい。
- ③先進地の具体的な活動内容の情報が欲しい。
- ④小学校と中学校では取組に差があると思う。中学校に地域の人が入りづらいように思う。

##### (イ) 研修会からの感想

###### ①各学校での理解

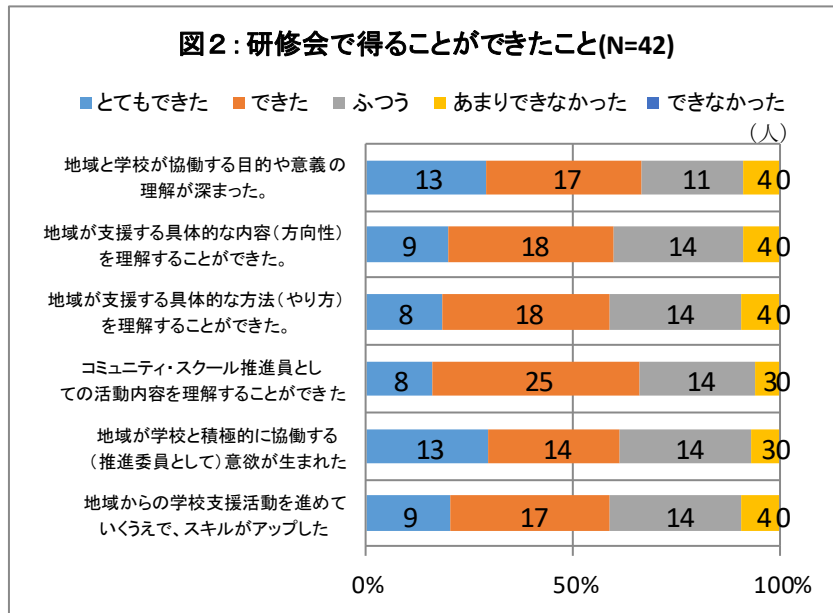
別府市内小中で取組む意義が今一分からない。より単Pもしくは各学校において課題を掘り下げるような研修会を経てからこのような会があった方が内容も深まったと思う。

###### ②CS推進委員会のあり方

- (1)CS推進委員の思いが学校への押し付けにならないよう学校行事等との連携を良く話し合って進めて行きたい。
- (2)イメージが先行して、これからやること、何をどうやって、どことつながるかをいつも念頭におきたい。

###### ③感想

- (1)学校との協働ということなので、学校の校長先生も話し合いに入ってもらった方がいいのではない。
- (2)学校運営協議会に移行するまでの時間をたっぷりとる内容がありそう。
- (3)今後の努力点がおぼろげに浮かんだような気がする。
- (4)CS推進委員として具体的にどう動いていったらよいかまでは、意識化でき



なかったが、学校と地域が協力して、子どもを育てていくことの大切さは再認識することができた。

(5)先進地の具体的な活動内容の情報がほしい。

(6)今日のような討議は有効です。

## (6) 考察

C S推進委員個人としてのこれまでの研修の実態が把握できていないが、C Sの基礎的な研修の必要性が見えてきた。特に一番多かったのが「C S推進委員としての役割」と「地域の教育資源の存在」について参考になったという回答が70%以上であることから、今回の研修を今後の研修にどうつなげていくかが重要であると考えられる。逆に、「今回の研修で得ることがなかったこと」については全ての項目で40%が「ふつう」「得ることがなかった」と回答している。このことは、1つ目は研修内容が不備であったこと、2つ目は研修内容を消化できなかったことが考えられる。

## 3. 第3回教職員及びコミュニティ・スクール推進委員合同研修会

### (1) 趣旨

シンポジウムと熟議を組み合わせて、学校運営におけるPDCAサイクルの中での教職員とC S推進委員との連携・協働に関するまとめの研修を行う。

### (2) 研修内容

#### ア. パネルディスカッション

##### (ア) 実践者をパネラーとして、生の声を出し合う

- ①C S推進委員、教職員（管理職含む）、支援者等の実践者のパネリストが良い。
- ②推進するための方策、現状の取組からの改善点等の提案が必要である。

##### (イ) C Sとしてのテーマへの取組の事例について

- ①学校の課題に対応するために取組んだ活動とその成果・課題を交流する。
- ②学校の様々な教育課題を共有する。
- ③C Sの活動を日常的に支援するための、支援者のマニュアル作りを協議する。
- ④全体の研修会、個別の学校のC S推進委員会を見ながらC S推進委員の人や担当の先生が一人で苦しむのではなく、うちの学校ではどうすればよいのかを提案していく。

##### (ウ) C S推進委員会の組織づくりと運営の事例について

- ①C S推進委員に求められる（求める）もの（力になれる人）について明確にする。
- ②学校評議員とC S推進委員の関係（違いや共通性等）を明確にする。
- ③C S推進委員自身が、選任された立場や地域への思いの活動をより充実するための委員であることを理解する。（重荷にならない開かれたC S推進委員会とは）
- ④学校評議員から引き続きなので意見を言うC S推進委員会という現状をどう変えるか。
- ⑤課題は分かっているが「実働する」までの考えがない現状をどう変えるか。

#### イ. 合同熟議

※2校～3校（6名～8名）合同班で実施

※内容：今後のCS（CS推進委員会）の進め方を考える

**(ア) CSの目的を達成するための具体的な活動について**

- ①学校教育の課題を共有した上で自校のCSとしてのテーマの設定と具体的な取組を協議する。
- ②教育課程への位置付け、コーディネート、予算等の確認をする。

**(イ) CS推進委員会の運営方法**

- ①CS推進委員会の組織編成はこれいいのか。
- ②CS推進委員会と連動する日常的なコーディネート機能は出来ているのか。
- ③CS推進委員会の年間活動計画は出来ているのか。  
→PDCAサイクルの中に位置付けることが重要

**(3) 研修概要**

パネルディスカッションと熟議を組み合わせ、学校運営におけるPDCAサイクルの中での教職員とCS推進委員との連携・協働に関したまとめの研修を行う。

**ア. 日 時**：平成26年11月27日（木）13：30～16：30

**イ. 対 象**：小・中学校教頭及びCS担当者 各CS推進委員2名（参加者66名）

**ウ. 会 場**：別府市役所5階大会議室

**エ. 講 師**：特定非営利活動法人スクール・アドバイス・ネットワーク

理事長 生重 幸恵 氏

特定非営利活動法人ピアサポートしづや 理事長 相川 良子 氏

**オ. 登壇者**：CS2年次校の教員及びCS推進委員、支援者、公民館CN，推進等委員等

**(4) 研修プログラム**

**ア. 研修1**

実践（シンポテーマ）からの成果と課題を基にして、これからすべきことを考えよう。

**(ア) 内 容**

- ①CSの捉え方
- ②学校教育課題に対応するCS活動テーマと取組
- ③CS推進委員会の組織づくりと運営の体制
- ④地域教育力を活用するCSとしてのテーマに取り上げて欲しいこと

**(イ) 登壇者**

①教 員：別府市立亀川小学校 教 頭 寺岡 稔晃 氏

②委 員：別府市立朝日小学校CS推進委員会 委員長 太田 一字 氏

③提案者：特定非営利活動法人ピアサポートしづや 理事長 相川 良子 氏

※ファシリテーター：特定非営利活動法人スクール・アドバイス・ネットワーク  
理事長 生重 幸恵 氏

**(ウ) 研修内容**

**①導入**

- (1)全体進行が登壇者4人を紹介（登壇の立場を含めて）する。
- (2)ファシリテーターが、3者に1分程度の自己紹介をしてもらう。

## ②討議

### ＝ 1クール＝

(1)教員：学校だけでは担えない教育課題を、地域と協働して取組を行う上での学校の考え方を報告する。(5分)

→学校(教職員)だけでは対応が困難な教育課題が存在することを確認する。

→教員から、取組の事例を報告し、登壇者全員で対応するための具体的な取組の実践を出し合う。

(2)相川氏：いじめや不登校等、心を病んでいる子どもたちへの対応に果たすCSの役割・重要性について提案する。

→CSとして、CS推進委員会が出来る事、地域がすべきことは何かを出し合う。

### ＝ 2クール＝

CS推進委員として、CSをどう捉えることができたかを報告する。(5分)

→学校教育の教育課題のCS推進委員との共通理解の手段について出し合う。

→CS推進委員の役割(何をする)と組織のつくり方について出し合う。

### ＝ 3クール＝

CSの活動を推進する上での、教職員やCS推進委員の関わり方を出し合いながら、教職員やCS推進委員の役割、運営についての方策や課題を出し合う。

→教育課題へ対応するための取組をするための企画作り、地域住民や企業・組織への働きかけの方法について出し合う。

→教育課題へ対応するための取組をするための企画作り等を行うための委員会議の開催方法について出し合う。

※開催回数、協議主体、教職員の関わり、全教職員への周知 等

→学校運営方針の承認と評価の方法について出し合う。

## イ. 研修2：(熟議)心を育てるネットワークづくり

(ア)内容：CSの目的を達成するための具体的例をもとにしてみんなで考える。

①学校教育の課題を共有した上で自校のCSとしてのテーマの設定と具体的な取組を協議する。

(1)学校は教育課程への位置付け、コーディネーターや取組内容等の確認をする。

②教育課題に対応するCS推進委員会の運営、組織、コーディネーター、年間活動計画を考える。

(イ)講師：特定非営利活動法人ピアサポートしぶや

理事長 相川 良子 氏

特定非営利活動法人スクール・アドバイス・ネットワーク

理事長 生重 幸恵 氏

※グループファシリテーター：別府市教育委員会

NPO法人大分県「協育」アドバイザーネット

## (ウ) 研修内容

①熟議の流れ(14:45～16:00)

(1)提案者：相川 良子 氏

(2)提案内容：いじめや不登校、非行等、心を病んでいる子どもたちの現状を説明し、班別熟議のテーマを「学校・家庭・地域が一緒になって取

組む方策」として考えて欲しい。

＝1クール＝ いじめや不登校、非行等の行動の原因や背景をK J法で模造紙に整理する。

→親・保護者（家庭）が原因の場合：

→先生不信が原因の場合：

→友達との関係が原因の場合：

→学力不振が原因の場合：

→地域環境・生活環境が原因の場合：

＝2クール＝ 地域全体で取組むことを考える

→第1クールで整理した「原因」への対応のための方策を自由に出し、記録係が付箋に書いて、模造紙に貼る。

→実施に取組むことを決める。

※誰が、何をするのか？

＝3クール＝ 実際に取り組むことを発表する。

## ②全体のまとめ（16：00～16：25）

### (1)講義

第3クールの「実際に取り組むこと」を取組むための地域住民・組織・企業の協力・連携が必要であることを押さえて、CSの日常的な活動のためのネットワークづくりの大切さを押さえる。

→CS推進委員会の役割、企画づくり、取組むためのスタッフ等の総合的な組織が必要である。

→学校は、教育課程に位置付けて、CSとしてCS推進委員との連携意識が必要。

## (5) 研修に関する意識調査の概要

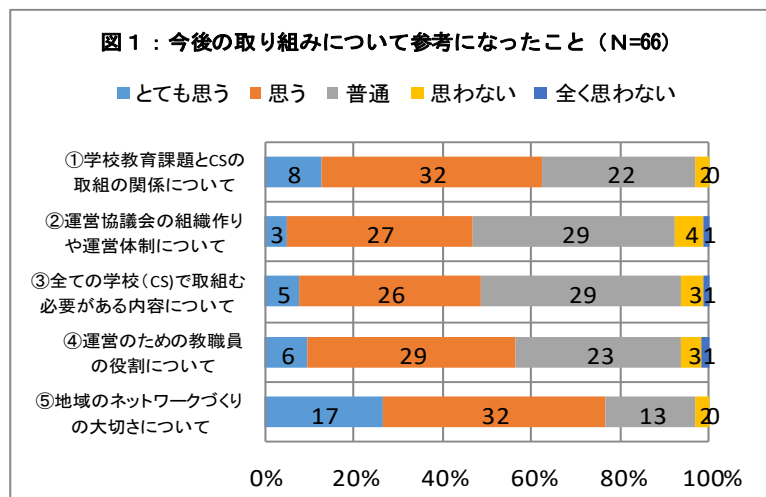
第3回は各学校のCS推進委員を対象に実施した。研修内容については、研修プログラム検討委員が検討しながら整理したCS推進委員対象の研修に必要なプログラムを組み立てたものである。参加者の内訳は、教職員が35名（第1回と第3回に参加した教職員が23名）、CS推進委員が31名（第2回と第3回に参加したCS推進委員が10名）である。アンケートでの教職員とCS推進委員の比較を見ることとする。

### ア。「これまで気づかなかった等、今後の取組に参考になったこと」

#### (ア) 参加者全員の傾向

図1はこれまで気づかなかった等、今後の取組に参考になったことについて示したものである。

「学校教育課題とCSの関係」においては63%が「参考になった」と回答しており、「両者の関係を双方が理解する」ことが大き

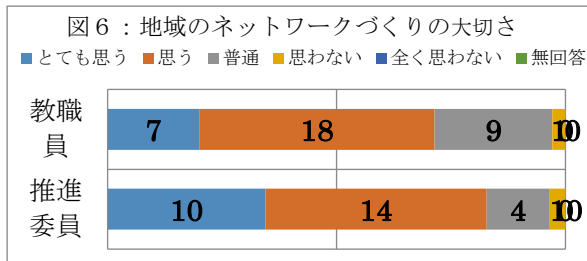
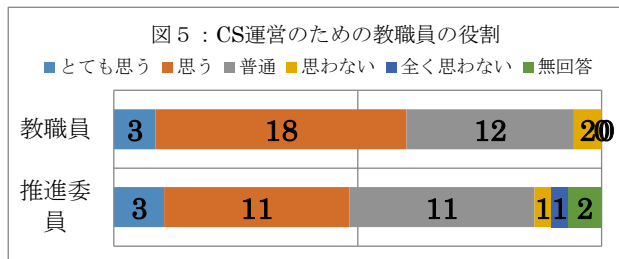
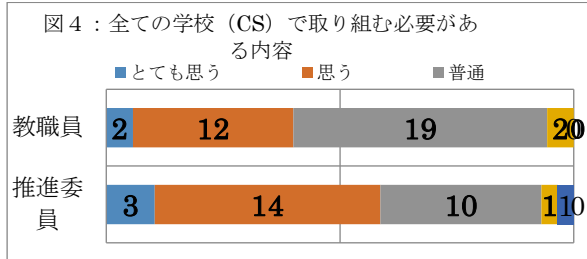
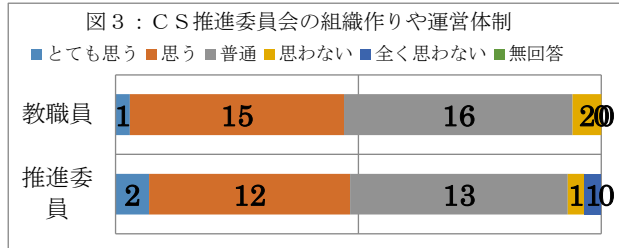
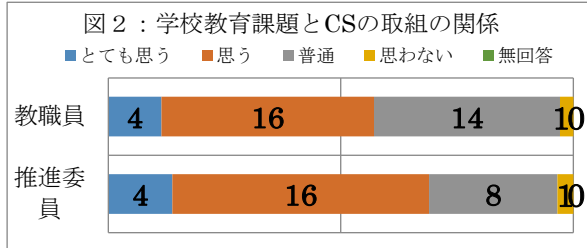


な目的であったことから、研修の成果が分かる。さらに、CSにおけるネットワークの大切さについても77%が「参考になった」と回答している。

また、後述するが、今回テーマに取り上げた「不登校への対応」については賛否両論や教職員だけの問題という意識から、あまり「参考になる内容」になっていないことが分かった。しかし、教職員の声として「CS推進委員と一緒に不登校のことを熟議できたことはとても良かった。我が学校でもしたい。」という感想もあった。

### (イ) 項目ごとの教職員とCS推進委員の比較

「これまで気づかなかった等、今後の取組に参考になったこと」について、項目ごとに教職員とCS推進委員とを比較してみる。



### イ. 「この研修に参加して得ることができたこと」

#### (ア) 参加者全員の傾向

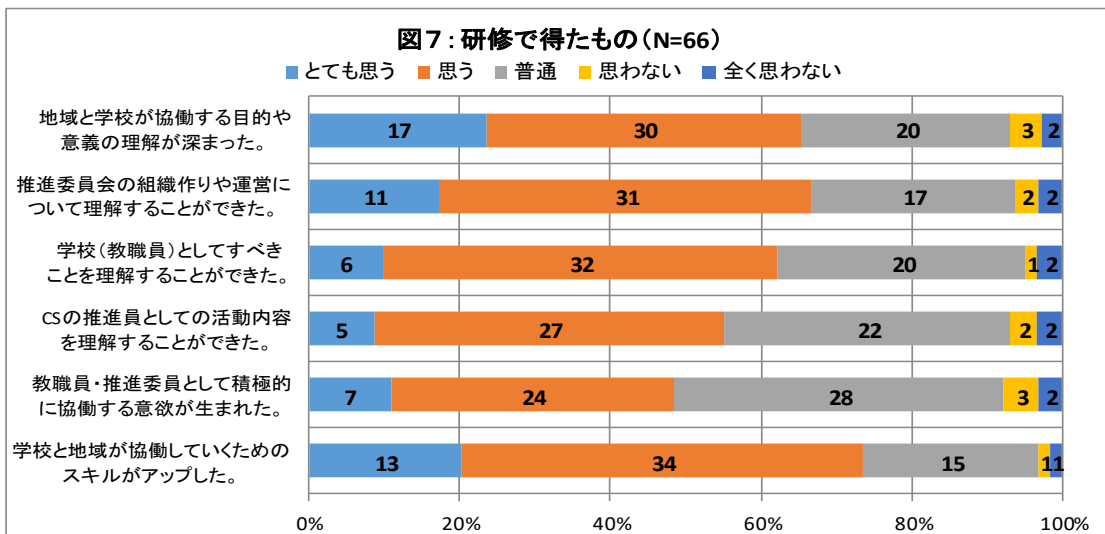
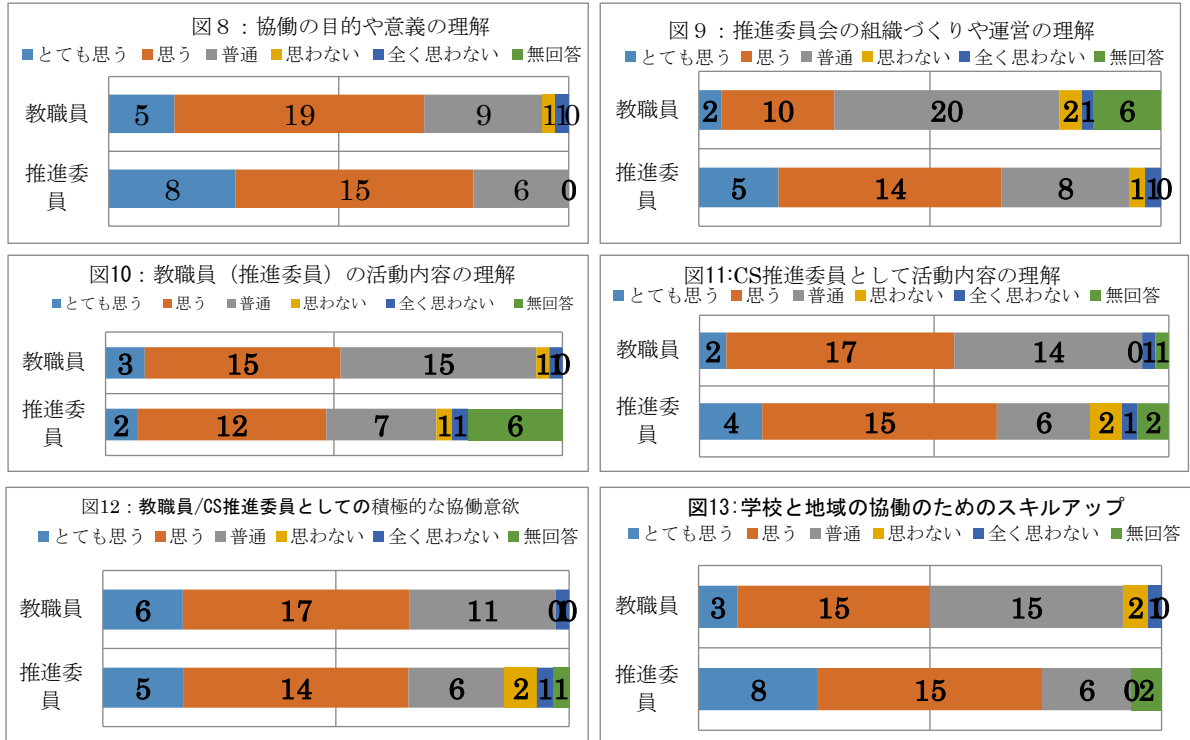


図7は、この研修会に参加して、それぞれの立場で「得られたこと」について示したものである。「スキルアップの向上」が70%以上と高くなっているが、逆に「積極的に取組む意欲の向上」は50%に至っていない。研修に何を求めて参加するのかを把握して、研修内容を検討する必要があると考える。

(イ) 項目ごとの教職員と推進委員の比較



ウ. 教職員アンケート

(ア) 今回の研修会の感想等について

① 全体的な感想

- (1) いじめ不登校の関係性の弱い子どもたちへの関わり方を通してCSの方々と話し合いができたことは有意義だった。子どもたちに関わるために、まず教師の私がCSのCS推進委員と関わっていきたいと思った。
- (2) 前半の各学校の実践について、もう少し時間をとって知りたい。パネルディスカッションは分かりやすく良かったが、じっくり聞いてみたかった。
- (3) 相川さんのお話がとても興味深かった。もっとじっくりお話を聞きたかった。不登校や引きこもりの子をどう見守り支えていったのか、いろいろ経験を聞いてみたい。
- (4) 相川先生のお話はとても良かった。子どもを信じるのが大切だと改めて感じた。
- (5) 関係性の弱い子に対する研修会を通し、改めてCSの意義が深まった。
- (6) 各グループの話し合いの結果が多様であったのでとても素晴らしいと思った。とても学ぶことが多くあった。
- (7) 地域、家庭、学校が共通して課題を共有することがまず大切だと感じた。大きなことをやるのではなく、シンプルな誰にでもできる取組から始めればよいと感じた。

## ②今後の研修へ

- (1)熟議の内容が難しく具体的な対策まで踏み込めなかった。さらに各学校のCS推進委員会で考えていければと思う。
- (2)同じ校区の担当者が集まって話すことも大切だと思った。小学校から中学校に進学した時、少し似た環境があると子どもたちも安心できると思う。
- (3)学校職員と学校外のCS推進委員とで具体的な方向性や取組の形が確認できたことが何よりの収穫であった。校区ごとの熟議を重ねていくことがこれから大事であると思う。

## ③研修内容に関すること

- (1)第3回目しか参加していないので、これまでの研修の中でも取り上げられていたかもしれないが、各学校でCSに取り組んでいく上で困り等について視点を設けて話し合ってみたかった。
- (2)残念ながら、あまり意義のある研修会とは思えなかった。

## ④運営に関すること

- (1)KJ法で分析的に解決する方法は大変分かりやすかったです。
- (2)熟議でのテーブル配置では、声が聞こえにくく話をしづらかった。
- (3)話し合いの仕方が分かりにくかったが、ファシリテーターの方に助けられた。
- (4)作業をスムーズに進めるためにグループに位置づけられたファシリテーターの方が、仕事の内容を理解しないままにグループについてしまったことは残念だった。
- (5)後半の熟議では、WSの流れの中で方向性が見えず困惑してしまった。テーマに沿った話し合いができなかったのは残念だし力量不足を感じた。
- (6)グループでの話の時、コミュニケーションがとりにくかった。もう少し少人数の方が良かったのではないか。
- (7)プログラムはスパンをきりすぎたと思います。グループでの話が切れるので、指示は簡潔に最初にまとめて出していただけるとありがたい。
- (8)話し合いの時間が短かった。せっかく集まったのだから、それこそ情報共有の時間がもっとあればよかったと思った。
- (9)KJ法での時間配分はもう少しゆったりで良かったと思う。グループで情報交換を含めた自己紹介等グループごとに行う時間があると良かった。
- (10)グループワークは話し合う内容が絞りきれず熟議にならなかったように思う。

## (イ) 研修を通して各学校でのCSの取組に活かしていきたいこと

- ①行政の示すCSでは、動機付けや意識付けにやはり弱さを感じている。CSから具体的な行動を取るとき「学校がすること」「地域がすること」等の声がないようCS委員が自ら「自分たちが行うこと」であるという気持ちを強く持つようになる機会がさらに必要だと思う。
- ②これからの学校の在り方、目指す方向性、CSの方向性をしっかりと間違えなく決めていなければならない。そのためには、CS会議の充実が最も重要である気がする。
- ③学校の諸課題を解決する。・・・CSと繋がってきたと感じた。
- ④KJ法でできることがわかった。数名で話し合い、よいアイデアが出てきた。この手法は取り入れていきたい。



## エ. CS推進委員アンケート

### (ア) 今回の研修会の感想等について

#### ① 全体的な感想

- (1) 各学校の実態に合わせた工夫が何よりも大切だと思った。
- (2) CS推進委員会を開いてもらって、もっとCSとして具体的に活動できることを話し合い、地域や校内で活動したいという意欲がわいた。
- (3) H27からCSが本格的になるわけですが、あせらず少しずつ進めることが継続する力をつけることになると思う。点(人)と点(人)のかかわりを増し、線となり面となっていくよう頑張ります。
- (4) 初めての参加で自分たちの役割の理解ができた。
- (5) 心を揺さぶる良い研修だった。
- (6) CSの理解が深まった。
- (7) 考える時間があつたので良かった。

#### ② 研修内容に関すること

- (1) 前回・前々回とのつながりがなく消化不良であり、継続性が必要ではないか。
- (2) 不登校について話し合いがあつたが、CSで取組むような内容なのか(参加者が共通に課題として持てる内容なのか)と感じた。大切な問題ではあるが、まず担任・学校として個別の取組があつてからのことではないかと感じた。
- (3) 熟議のテーマが重い。家庭に入り込めない部分が多いと思った。難しい問題だった。推進委員の責任の重さを感じた。
- (4) 趣旨目的が不明確。研修内容(生重氏や相川氏の話)は大変素晴らしかったが、いったいこの研修は今後CSを推進していく上で、何のために行われているのかわからない。二兎追う物は一兎も得ず・・・特別なニーズのある子への支援についての在り方研修なのか、CS推進に関する研修なのか。現段階の各学校のCS推進委員会の中でこのような熟議でもあれば深まったし、得る物もあつただろうと思った。
- (5) 改めてするような研修とは思えなかった。

#### ③ 運営に関すること

- (1) もう少し話し合いの時間が欲しかった。

### (イ) 今後の各学校でのCSの取組に活かしていきたいこと

- ① 方向性をゆっくり話し合いたい。
- ② 地域・親・学校のかかわりをきちんと理解してCSを通して向上させていきたい。
- ③ 緊密な地域住民・CS委員・学校・家庭の関係構築が必要である。
- ④ やはりCSとしては、これまでの「学校評議員」ではだめだということの理解と意識を深めた。(話を聞くだけ意見を言うだけではだめ) 今後CSの新人さんは、これらの研修会に必ず参加させることが大事である。校長さんは人選が難しくなると思う。

## (6) 考察

### ア. 研修の効果

パネリストによる各学校の現状を知ることで、各CS推進委員の理解や意欲付けになったと考える。具体的には「学校教育課題とCSの取組の関係」、「全ての学校

(CS)で取組む必要がある内容」「地域のネットワークづくりの大切さ」について、CS推進委員の理解が教職員より多かったことは学校理解が進んだと言える。さらに、研修会に参加して得たものについて「CS推進委員会の組織作りや運営の理解」「学校と地域の協働のためのスキルアップ」の項目についてもCS推進委員のほうが多かったことなどから、教職員とCS推進委員の認識(意識)が現状では差が大きいことがわかる。しかし、「不登校に関する課題」については、CS委員も必要性を感じながらも、具体的にCS委員として考えていく部分が難しく感じていることと同時に、学校の子どもたちの現実を受け止め、CSとしての教育課題であるとは分かっていたようである。また、教職員の感想として、地域の代表者と具体的な教育課題を協議できることが進むことを望んでいることもわかった。

研修プログラム検討委員会においても、今回の熟議の内容に関しては、「CSを考えるテーマとしては複雑な要素が多いので相応しくないのではないか。」「各学校のCS推進委員会で具体的な熟議を行う際のテーマとして重要である。」という意見が多く、教職員とCS推進委員が合同で行うメリットを活かしたテーマを別途設定にすることとした。

第2回の「地域の教育資源」に関するCS推進委員の研修で課題となっている「地域の教育資源の掘り起こしと依頼の方法」に関するテーマを設定する必要があることが協議された。(次年度の研修会でプログラム作成作業を行う。)

#### (7) 3回の研修会を通じた考察

教職員を対象とした第1回と第3回に参加した教職員は23名で、およそ半数の教職員へは継続的な研修機会を提供できた。その教職員のアンケートから、2～3名の教職員がCS導入そのものへの否定的な考えがあることがうかがえる。同様に、CS推進委員を対象とした第2回と第3回に参加したCS推進委員は10名であり、CS導入への否定的な委員もいる。特に、教職員経験者などの声として、

- ・教育課程については、学校がすべきことではないのか。
- ・今までのように応援として入っていくことはできるが、教育課程に地域が(どこまで)踏み込んでいいのか。
- ・教師の力量不足(時間不足)を地域に求めているのではないのか。

などがあることは、CS導入の研修がさらに求められるということも見えてきた。CS推進委員の場合は継続者10名であり、順番に研修会に参加している事がわかる。「今回の研修が各学校でどう活かされているのか」等を調査しつつ、今後、全ての教職員とCS推進委員の研修を体系的に実施していくかが問われている。

また、熟議の進行者はグループ内で決めるのではなく、事前に研修・打合せをしたグループファシリテーターを配置することが有効である。熟議の趣旨と方向性を理解したグループファシリテーターの有無で、熟議の目的の達成度が大きく異なることから、そうした配慮が重要である。

## IV 学校で実施する「コミュニティ・スクール推進委員会」の公開

C Sにおける研修プログラムの検証のための「C S推進委員会」の進め方を公開し、他校の教職員及びC S推進委員の研修の場とする。

### 1. 対象：各C S推進委員（教職員も含む）

### 2. 研修内容

全体の研修会で気づいたことをベースに、個別の学校のC S推進委員会を見ながら、C S推進委員や担当教職員が一人で苦しむのではなく、自校ではどうすればよいのかを整理できるための研修として公開する。

#### (1) 学校教育課題を共有し、協働で取り組むための方策を協議する熟議の進め方

※C S推進委員の役割を教職員及びC S推進委員が認識した上で次の内容を数回に分けて実施する。

##### ア. 学校が、まずすること

学校教育課題として地域住民等と協働したい内容を整理する。

##### イ. 学校教育課題の共有

教育課程を基にした学校運営に関する課題についての共通理解を図る。

→学校教育課題が、保護者や地域住民の課題でもあることを共有することが目的であり、C S推進委員会で、関係教職員とともにその課題を共有する。

→学校だけの課題なのか、保護者・地域住民も含めた課題なのかを協議する。

→P T A、地域の支援者等をオブザーバー（拡大メンバー）として参加者にする事も効果が大きい。

##### ウ. 学校教育課題への対応のための協議

学校が抱える教育課題で、保護者・地域住民が支援する活動と主体的にする活動を協議しつつ、自校におけるC Sとしてのテーマ、取組の方向性をつくる。

→学校教育課題の解決に対応するための取組について、テーマ担当グループの協議をとおして整理し、全体協議を行う。

#### (2) 取組を振り返り、学校教育課題にどう対応できたかを協議する熟議の進め方

※年度当初に「承認」した、C Sとしての学校運営に関するテーマ及び取組について、年度の評価（Check）及び改善（Act）に関する熟議を行うもので、次年度の学校運営への提案をどう作っていくかを、教職員とC S推進委員合同（「C S推進委員会」又は「関係者委員会」又は「拡大C S推進委員会」）で実施する。

##### ア. 取組の成果・課題（改善の方向性）の共有と評価

テーマ毎の取組について、学校教育課題の解決に向けてどんな成果があり、今後への課題が何かを提案する。

→「子どもにとっての評価」と「学校教育活動（教職員の教育活動）への評価」の2つを行う。

→学校からの報告に関する協議をとおして、取組の評価と今後の課題の整理と意識の共有を行う。

→「評価」は点数ではなく、その取組の成果を共有し、更なる取組につなげるため

の観点を明らかにすることである。

#### イ. 取組の改善の熟議

本年度の取組の改善、他の学校教育課題の解決に対応するための取組など、テーマ担当グループの協議をとおして整理し、全体協議を行う。

##### (ア) グループ協議で

- ①学校教育課題の解決のための取組の改善方策を協議して、全体へ提案する。
- ②学校教育課題の解決のための本年の取組の改善方策を協議して、全体へ提案する。

##### (イ) 全体協議で

本年度の実績から、次年度の「改善 (Act)」を協議する。

#### ウ. CS の組織及び運営に関する評価 (Check) 及び改善 (Act)

CS 推進委員会としての自己評価を行う。

→CS 推進委員として、CS 推進委員会としての改善の必要はないか。

→取組をするための日常的な事務局体制はどうか。

→地域住民や保護者への呼びかけ (参加者の拡大) はどうか。



**CS 推進委員会としての評価、及び改善の提案**  
→次年度の中心的な「承認事項」であり、PDCAの柱となる

### 3. 別府市立上人小学校CS推進委員会の公開

- (1) 日 時：平成26年11月18日 (火) 15:00～16:45
- (2) 会 場：別府市立上人小学校
- (3) 参加者：22名

1回目は、平成25年度にCS推進委員会を設置して、県教委事業の「目標協働達成モデル事業」の指定研究と連動した取組を行っている別府市立上人小学校のCS推進委員会を公開して研修したものである。特色としては、指定研究である「評価」を基盤においた学校教育課題の解決に向けた取組を、PTAと協働で推進していることにあると感じた。以下、参加者が研修できたことをアンケートから紹介する。

#### (4) 公開CS推進委員会の内容

##### ア. CS推進委員会のこれまでの取組

- (ア) 重点目標に係るこれまでの取組について
- (イ) 教職員アンケートから
- (ウ) 学力向上対策について
- (エ) CS推進委員会の今後の取組について

##### イ. テーマ毎の協議

- (ア) 3部会に分かれての協議
- (イ) 3部会から報告・意見交換

##### ウ. 今後の推進方策について

※別府大学学生による学習支援の様子を視察

(5) 研修会で理解できたこと、発見できたこと

ア. CS推進委員

(ア) 学校から見たCSの活動

- ①子どもの実態・評価を計画的にして、それを見ながら取組が見直されていることは効果が上がると感じた。
- ②先生が変わったという感がある。素晴らしいと感じた。

(イ) CS推進委員会の運営

- ①学校主導という感があるが、立ち上げ時には必要だと感じた。
- ②委員会主催の取組事業が必要であること、地域の願いを実現する方策が必要であることを感じた。
- ③三部会に分かれて、小さなグループでテーマ毎の話し合いは参考になった。
- ④月1回実施しているということで雰囲気良く、「地域とともにある学校づくり」の姿が拝見できた。

(ウ) CS推進委員会の取組とPTAの関係

- ①PTAの取組・役割が大きく、PTAのかかわりが進んでいると感じたが、CSの取組とPTA活動の関係を知りたい。
- ②保護者が学校に来る機会（授業参観でより保護者を取り込む工夫、参加したくなるような取組）をつくり、この取組を皆に理解してもらい、取組の内容を伝えて協力してもらうように考えている。

(エ) 地域教育力の活用

- ①放課後の学習支援について、習熟度で算数のクラスを分けることをしていることを知り、分けることは一見差別のように思われるが、本当は1人1人が本当に理解できることを目的にした真の学ぶ機会の平等だと思った。
- ②地域（校区）にある大学と良い連携がとれており、大学10数名での学習支援が素晴らしい。
- ③保護者の参加、意識の低さが問題なのは同じだと思う。

イ. 教職員

(ア) 学校から見たCSの活動

- ①実態把握や成果の検証としてのアンケート等と重要性や、それを基にして、子どもたちのためにできることは何かという方向で進んでいる、よりよい環境づくりのためのシステム作りが参考になった。
- ②学校の考える重点目標達成のため、3つの部会に分かれ具体的な取組を検討しており、学校のために地域や保護者に何ができるのかを考えていく組織がうまく作られていることも参考になった。実際に話し合いをしている場を拝見させていただきよく理解できた。
- ③地域、保護者、教員の一体感を感じたが、今現在では、地域から学校や保護者への要望、学校から地域への要望が多く、一緒に作っていく感じが薄いように感じた。

(イ) CS推進委員会の運営

- ①各部の目指す目標があり、3部会に分かれてじっくり少人数で話し合う時間を

持っていたことが大変参考になった。

- ②部会に分けることにより、CS推進委員会に参加する教員や学識経験者のメンバーが考える内容が明確になると感じた。
- ③推進委員会の討議をそばで感じることができ、本校で運営する際の参考になった。3部に分かれての具体的な話は、今後の運営の在り方を考える良い材料になる。

#### (ウ) CS推進委員会の取組とPTAの関係

- ①組織として3つの部に分かれてやっているのが参考になったが、PTA組織とのかかわりはどうなっているのか知りたい。
- ②CSの進み方は、それぞれの学校で独自のものがあるということを感じた。PTA活動を中心に進められているように感じたが、今後、どう地域の方へ広げていくのかという方向に関心をもてた。
- ③PTA活動の充実にも繋がりそうだったと思った。本校は、それが足りないので参考になった。
- ④課題に対してPTAや地域が積極的に取組もうとしている点に感銘を受けた。同時に学校としてまずしっかりと取組むことも大切だと感じた。

#### (エ) 地域教育力の活用

- ①別大生の学習支援の様子を参観させていただいたが、マンツーマンでいいなあと感じた。

#### (オ) 今後への課題

- ①3部という形も最初のうちは有効なものである。ただし、取組み方の話ばかりになるとマンネリ化するかもしれない（自分の学校で言えばですが）
- ②CS推進委員会（3部会）で話し合われた取組を実際行うとなれば、運営委員会にかけることになるが「CS推進委員会＝学校」とはならないと思うが・・・。
- ③何のためのCS推進委員会なのかをわかりやすく、しかも具体的に説明できるように教職員は研修しないといけない。教育委員会は、連合PTA会長、単P会長に向けた説明会を開くことが大切である。

### (6) 今後取り上げて欲しい研修内容

#### ア. CS推進委員

##### (ア) 研修内容

- ①各学校のCS推進委員会議での、市教委との懇談が必要で、直接市教委の考えを聞くこと、住民の考えを直接伝えることが必要と思う。
- ②1年目の学校（本年取組始めた学校）の進め方や、2年目の学校の在り方・進め方など学び直したい。

##### (イ) お願い（情報提供して欲しいこと）

- ①CSとして、子どものために活動している公立公民館の連携状況や、今の組織の地区育成協等の関係作りについての各学校の現状はどうか。
- ②別府市内全部の活動状況を報告して欲しい。

#### イ. 教職員

##### (ア) 研修内容

- ①同様の内容でもいいので、色々な学校の取組を見せて欲しい。本校は本年度が1年次なので、とにかく様々な取組を見て研修を深めていきたい。県外先進校

の実践も見る機会を設けていただけるとありがたい。

② P T A 組織と C S 推進委員会がうまくまとまっていけないと多忙化に繋がっていくが、その点を上手に運営するにはどうして行けばよいか。

③ 学校支援組織を作る時の過程について学びたい。

(イ) お願い (情報提供して欲しいこと)

① 上記のことを踏まえ市教委は教育委員会規則で要綱及び細則を定めてほしい。各学校が柔軟な対応ができるよう配慮すべきであり、コーディネーター等の人的配置に係わる予算措置に努力していただきたい。

#### 4. 別府市立石垣小学校 C S 推進委員会の公開

(1) 日 時 : 平成 27 年 1 月 27 日 (火) 15 : 00 ~ 16 : 40

(2) 会 場 : 別府市立石垣小学校

(3) 参加者 : 23 名

2 回目の本研修は、本年 1 年次の学校の C S 推進委員会の協議内容の手順や熟議の進め方を公開したものである。これまでの C S 推進委員会の内容の報告と、3 つの部会 (「夢」コミュニティ・「命」コミュニティ・「心」コミュニティ) に関係教職員を含めた熟議を行った。特色としては、C S 推進委員である、C S 研究者としての大学教授を中心とした取組である。以下、参加者が研修できたことをアンケートから紹介する。

(4) 公開 C S 推進委員会の内容

ア. C S 推進委員会のこれまでの取組

(ア) 準備会、検討会、C S 推進委員会の開催について

(イ) C S が取組テーマについて

イ. 石垣小学校 C S 推進委員会が描く子ども像について (熟議)

(ア) 3 つのコミュニティ毎の熟議

\* 「夢」コミュニティ、「命」コミュニティ、「心」コミュニティ

(イ) 各コミュニティの「目指す子ども像」の発表

(5) 研修会で理解できたこと、発見できたこと

ア. C S 推進委員

(ア) 同様な C S 推進委員会を行っているが、具体的な議論がなされており参考になった。めざす子ども像等必要なことが分かり良かった。

(イ) 「命」のコミュニティ・「心」のコミュニティ・「夢」のコミュニティの 3 つの活動という取組み方は参考になりそうだ。

(ウ) C S 推進委員会と P T A との連携が課題になりそうだ。

イ. 教職員

(ア) C S 推進委員会のあり方

① 自分の学校の C S 委員会の実践があって、他の学校の C S 委員会と比較することができたが、自分や自校の力となっているなど感じた。

② 多くの地域の方や保護者の方が熱心に話し合いをされているのを見て、子どもたちのためにより良い方向へ育てようとする気持ちがよく分かった。今後生活

かしていきたいと思う。

- ③どんな子どもを育てたいか熟議をしながら話し合い、共通理解をして学校・家庭・地域それぞれでどんな取組が大切・必要なのかを出し合う。そして、協働していくことがどの機関・立場の人たちが主になって実践し、成果と課題を出し合い、次の活動につなげていく。お互いがお互いを理解し合い、子どものためになること、無理のない活動を推進していくことだと思った。(できる活動)
- ④本校のCS推進委員会は学校主体で進んでいるため、今日拝見した熟議などはなく学校が説明してCS推進委員の意見をもらうという形である。今日の石垣小学校は全てを推進委員会主体で進んでおり、熟議も地域主体で話し合われており、新鮮に感じた。育てたい子ども像をCS推進委員会で熟議したということも発見だった。本校では学校側から提起しているが、このようにCSで話し合っていくということも大切だと感じた。
- ⑤地域の色々な方が参加し、様々な角度から子どもに対する意見を出していること。地域に対してチラシなど利用して広報活動に努めていること。
- ⑥これまで組織作りや運営・活動内容等CS推進委員会で議論してきたが、ゆくりとめざす子ども像について話す機会は持てていなかった。何のためにというめざすものを委員で共有することはとても大切だと感じた。ワークショップで、コミュニケーション活動等取り入れたCS推進委員会を開催して研修を深めていきたい。
- ⑦学校の教職員が中心となるよりもCS推進委員の中から中心となる人が出て会を運営していく形式の方がスムーズに流れていくように思われる。その中に教職員が係わっていく形が良いのでは。
- ⑧前回の上人小学校もそうでしたが、いくつかの部会に分かれての活動が良いと感じた。ただ、それぞれの部会が中心となっていただく方が教職員以外にいらっしやる方がいいのですが、なかなか。
- ⑨企画会、準備会等、回数を重ねていく中で見通しを持ちながらCS推進委員会を開催できていることがすばらしい。また、今日の実際の姿も活気があり、うまく地域とつながっていることが伝わってきた。自分自身の学校でも来年度は部を立ち上げて具体的な取組を進めていきたい。
- ⑩1グループ6～7名という構成で意見を出し合うこと、様々な分野の方が関わっており、これだけの人材をどのようにして集めたのか、その術を学びたいと思った。教職員(各グループにいた)と地域の方のつながりができていると思いい、つながることの大切さを感じた。

#### (イ) 取組のテーマについて

- ①CS推進委員会の他校の例を見ると、支援組織として「環境支援」「学習支援」「生活支援」の3つの組織で取組んでいる学校は多いが、石垣小は命・心・夢・親育の4つの組織で取組んでいたことに生徒支援に対するきめ細やかな配慮を感じた。ただ、それぞれの組織の連携や活動内容をもう少し詳しく知りたくも思った。特に、親育については、理解と協働は不可欠な要素である。熟議では具体的な子ども像を描くことの大切さを学んだ。
- ②中学校では学力・生徒指導・地域などと分けてしまうが、命・夢とする方が命から思いやり生命尊重、夢から将来の設計、それを支える基礎基本の定着・・・など、具体的なものが見えてくる気がした。



#### (ウ) 組織作りについて

- ①人選がとても重要であること、石垣小学校のCS推進委員会のあゆみとどのように会を進めていくのかなど、これから学校で活かしていきたい。

#### (エ) CSの進め方について

- ①資料の中にあったCSの流れの説明を聞き、これからCSを始めるにあたって具体的にどう進めていけばいいのか、1つの展開例を理解することができた。
- ②CS推進委員会の様子を見て、めざす子ども像を絞り込んでいく手順がイメージできた。本格実施までの約1年間で何をしていかなければならないかをつかめた。学校に持ち帰り活かしていきたい。
- ③世代、性別、職業等、様々な人が集まって熟議するのは意義があることではあるが、ある程度方向をまとめるのは難しいと感じた。学校と保護者（子育ての当事者）の願いを整理し、地域等に理解してもらう方法も考えられると思う。子ども像等がはっきりしてくると必要な組織等もはっきりしてきそうである。今あるものを利用し必要があれば更にコミュニティを広げていく形が良さそうだと思う。

#### ウ. 今後取り上げて欲しい研修内容

##### (ア) 具体事例について

- ①具体的な活用例を知りたい。学力支援として地域の方の力を朝の読書活動（読み聞かせも含め）や、質問教室に活用している他郡市の取組を聞いたことがあるが具体的な姿等を知りたい。
- ②学校と地域コーディネーターとの連携事例を研修のテーマの1つに挙げてもらうとありがたい。
- ③実際につながりのある組織、団体、個人の方々が学校に入り、子どもたちの活動している姿が見られるとありがたい。（上人小学校でも見られましたが）教職員全員を対象にした研修会もあっていいのではないかと感じている。（夏の教育講演会で少しありましたが）
- ④学校の重点目標を実現するためのCSの組織的取組の紹介（めざす子ども像は、それほど大きく学校内で変る物ではないと思うので）や、それぞれの組織での効果的な取組の例があれば知りたい。
- ⑤先進校が取組む中で生じた成果だけでなく課題について知りたい。また、課題について意見を出し合う場があってもよいのではないか。

##### (イ) 資料提供・共有について

- ①チラシの資料やCSの資料を別府市の共有ファイルに各学校が入れるようにすると参考にできるし、とても役立つと思う。

2回のアンケートから、CS推進委員会の公開が、各学校の運営に有効であったと考えられる。CS推進委員会の役割や協議内容等についてのマニュアルが無く、説明だけではイメージがわからない内容もあることから、今後、相互に公開して研修することによって、自校の運営方策に活かしていく仕組みづくりが必要であると考えられる。

## V コミュニティ・スクールに期待する学校（教職員）の意識調査

### 1. 目指す学校像に関する意識調査：事業実施当初

#### (1) 調査の目的

本事業において、昨年度作成した「目指す学校・目指す教師」に関する意識調査を行い、地域教育力の活用内容を分析し、研修プログラムに活かしていく。

#### (2) 調査の概要

ア. 調査日：平成26年8月27日（水）

イ. 会場：別府市水道局研修室

ウ. 調査対象者：教職員43名

#### (3) 意識調査の方法

第1回の各学校の担当教員及び管理職を対象に実施した研修会の冒頭に、昨年度作成した「目指す学校・目指す教師」に関する意識調査項目についてクリッカーを使用して、毎日の教育活動に関する意識調査を行った。

#### (4) 学校教育活動についての課題・願いに関すること

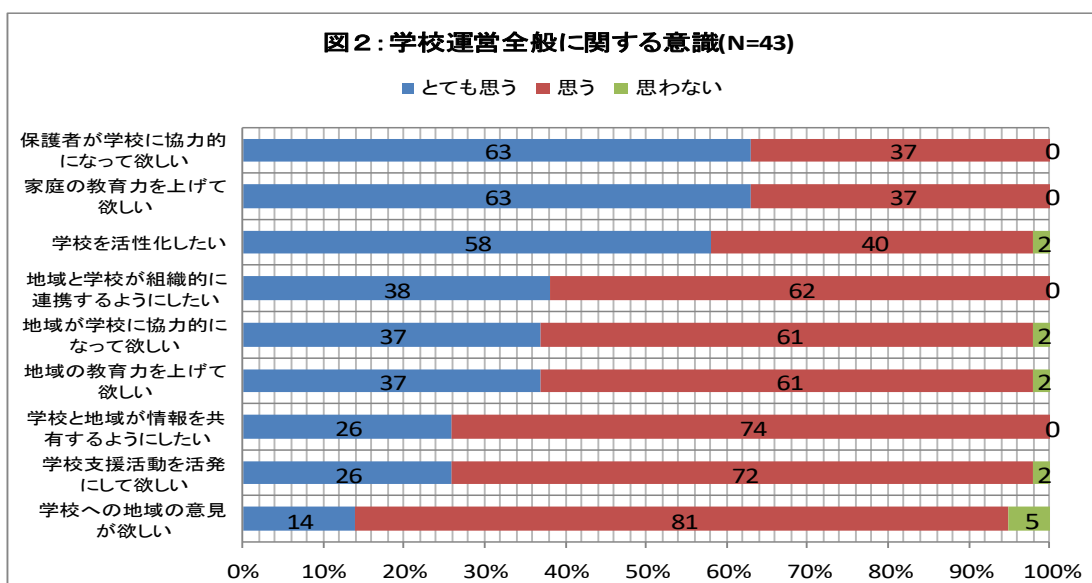
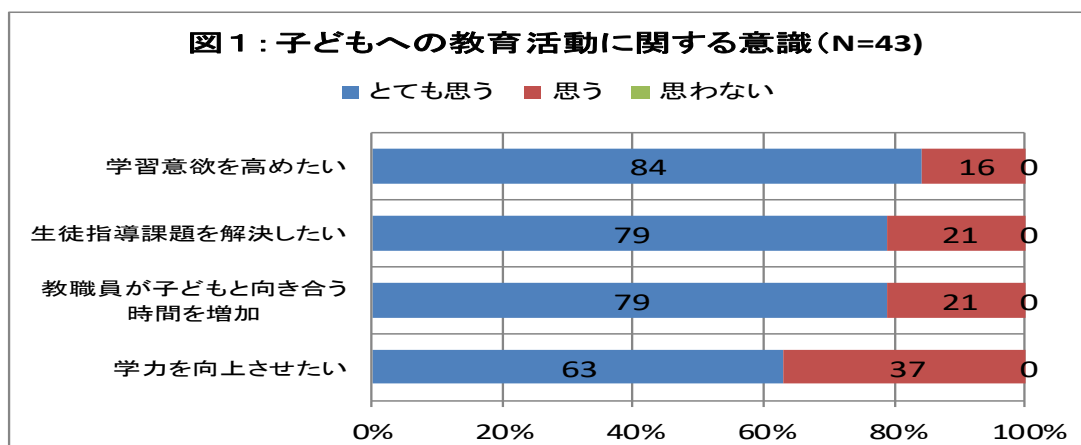


図1は、子どもに関する内容をまとめたものである。

全ての教職員が、子どもの学習意欲・学力向上、生徒指導の課題、子どもと向き合う時間の確保に関して高い関心（課題・意欲）を持っていることがわかる。現状としては、それぞれの学校における課題として受け止め、学校内での取組を進めている内容であろう。

図2は、学校運営全般に関する意識を示したものである。ほぼ全員が全ての項目で、保護者や地域との連携、協力を望んでいることがわかる。学校教育活動を推進していく上で、学校のみでは対応しきれない課題があることを認識しているからであろう。特に、保護者に関わる内容については高い割合で望んでいるが、地域からの学校教育活動への関与は「とても思う」が少なくなっていることから、地域の教育力の活用への懸念があることが推察できる。

## (5) 考察

昨年度に、県内3校で行ったアンケート調査の結果とほぼ同じ傾向であり、別府市の教職員だけが抱える意識ではない。しかし、別府市としての教育課題解決のためには、「教職員の意識」の把握にとどまらず、教育課題への対応、教育課題を解決するための取組が求められている。そこで、現在、別府市が進めているCSの導入によって、教職員だけでは対応が困難な教育課題の整理と、保護者・住民との協働による豊かな教育活動の展開を可能にする、関係者のマネジメント力の育成が重要である。

## 2. 事業終了時の調査：CSに関する研修成果の調査

### (1) 調査の目的

平成27年度指定予定校と、平成26年度から調査研究校として実施する学校の全てを対象として、CSの取組についての研修の活用（成果）に関する調査を行い、今後の研修に活かしていく。

### (2) 調査の概要

- ア. 調査時期：平成27年1月27日（火）～2月6日（金）締切
- イ. 調査対象校：22校（小学校14校、中学校7校、幼小中学校1校）

### (3) 調査方法

研修事業終了後の1月27日（火）に各学校へアンケート用紙を送付し、学校長名で記入して、2月6日（金）までに回収した。

### (4) 研修内容の活用に関する各学校の状況

本事業におけるプログラムの作成は、前述したように、必要な研修内容の整理と研修会の実施をとおして、各学校のCSの取組に生かすことを目的にしている。単に参加者個人の学びに終わらず、各学校にどう生かされているか（生かそうとしているか）を調査したものである。

※母数は22校であるが項目によって未記入がある学校が1校あった。

- ア. 設問1：CS推進委員会で還元（報告）することができたか。
- 設問2：校内で教職委員へ還元（報告）することができたか。

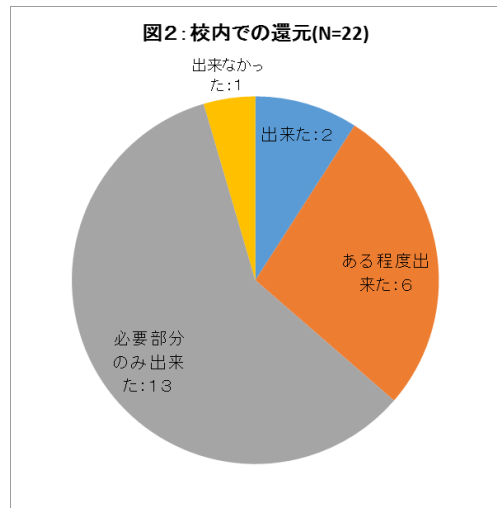
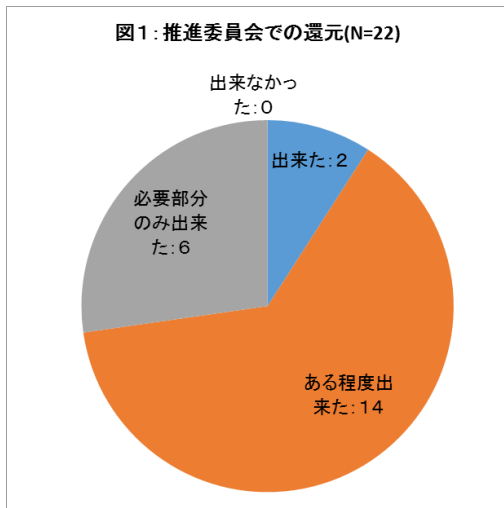
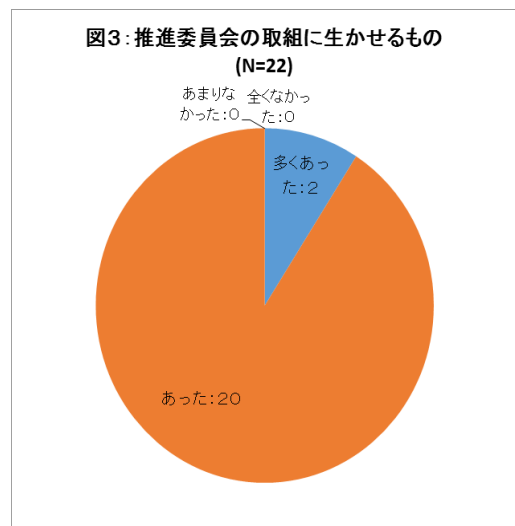


図1はCS推進委員会での還元（報告）の状況、図2は教職員への還元（報告）の状況を示したものである。1校の「校内での還元が出来なかった」を除いて、全ての学校において、CSの取組に必要な研修内容が推進委員会及び教職員への還元が行われていることがわかる。

イ. 設問3：研修内容がCS推進委員会の取組に生かせるものがあったか。

図3は各学校で進めているCSの推進委員会（今後の「学校運営協議会」）の組織作りや運営、CSとしての活動に生かせるものであったかを示したものである。

各学校の課題や取組のテーマは異なっていることが考えられるが、3回の研修で生かせる内容があったことがわかる。設問4以降でその内容を示すこととする。



ウ. 設問4：どんなことがCS推進委員会の取組に参考になったか。

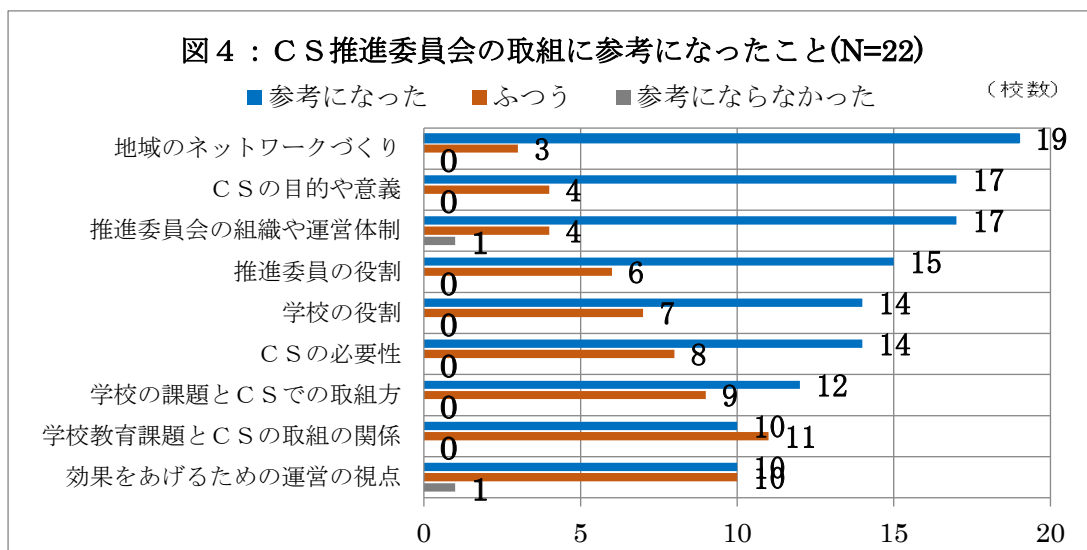


図4はCS推進委員会の取組に参考になったことを示したものである。参考になった（「とても参考になった」と「参考になった」の合計）内容としては、地域のネ

ネットワークづくりの大切さが19校で最も多く、CSの目的や意義とCS推進委員会の組織作りや運営体制について17校と続いている。反面、CSの効果을あげるための運営の視点や学校教育課題とCSの取組の関係については半数程度になっており、今後の研修が求められる内容である。

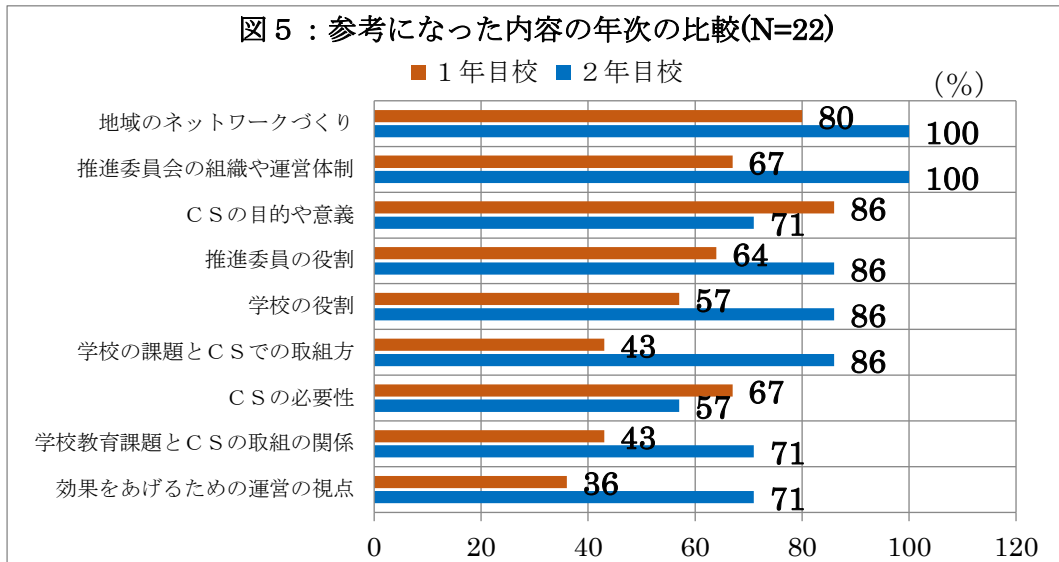


図5は参考になった内容を、参考になった割合が高い順に、1年目と2年目の比較を示したものである。1年目校が15校、2年目校が7校で、それぞれ、母数を分母として「参考になった」割合を示している。ほとんどの項目で2年目校の方が、CS推進委員会の取組の参考になっていることがわかる。このことは、1年間のCSの取組の中で、「分からないこと」や「具体的な取組をする場合の課題」等を整理出来て研修会へ参加していることがうかがえる。

エ. 設問5：CS推進委員会の取組に生かしたこと（生かそうと思うこと）は何か。

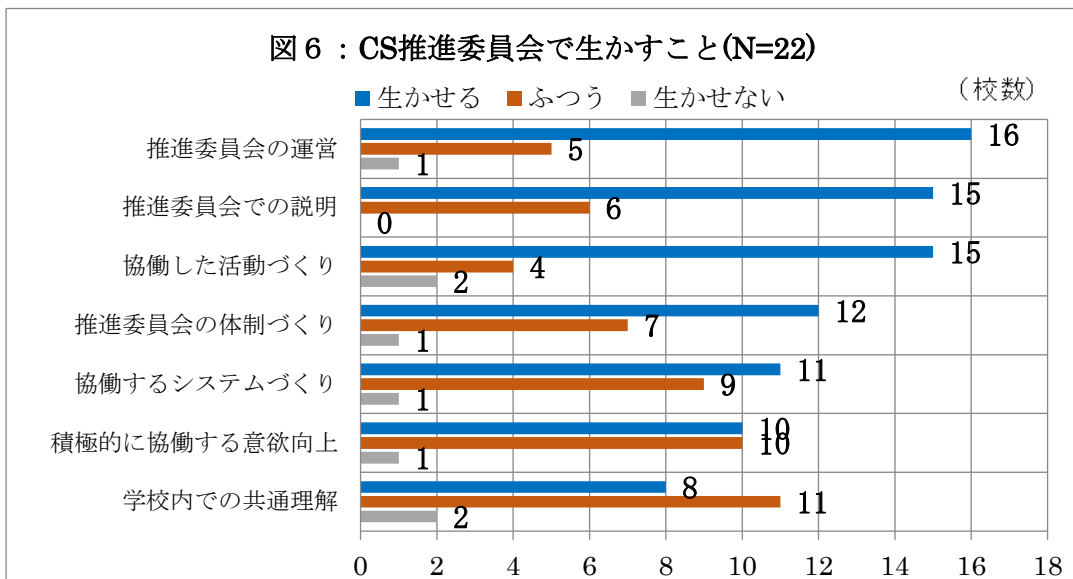


図6はCS推進委員会の取組に生かしたこと（生かそうと思うこと）を示したものである。CS推進委員会の運営に関することが16校で最も多く、次いで、CS推進委員会での説明や、教職員と地域が協働する具体的な活動内容づくりに生かされると回答している学校が多い。CSそのものを動かすシステムや意欲の向上、学校

内での研修による共通理解については今後の研修が必要である。

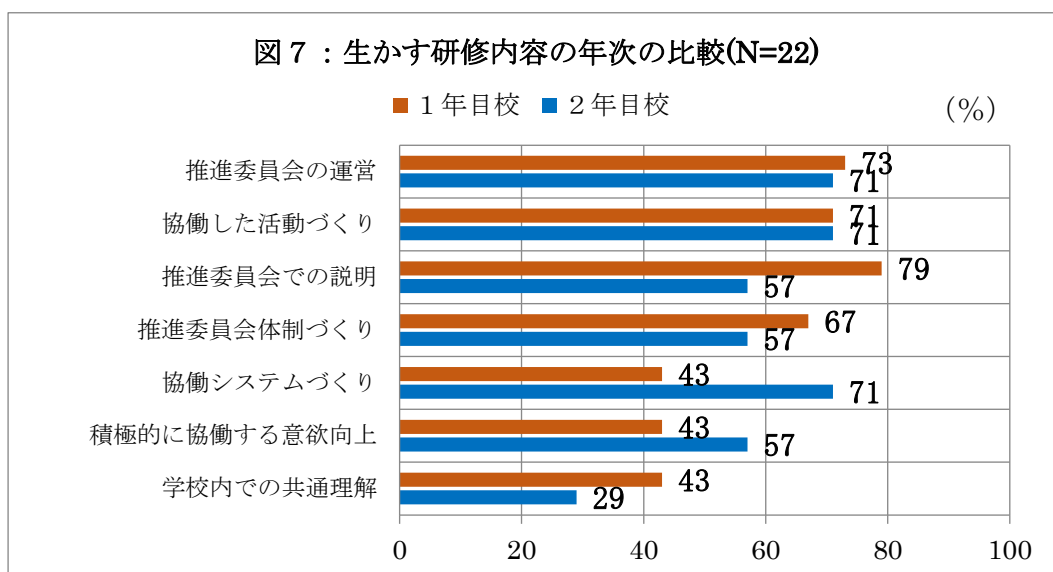


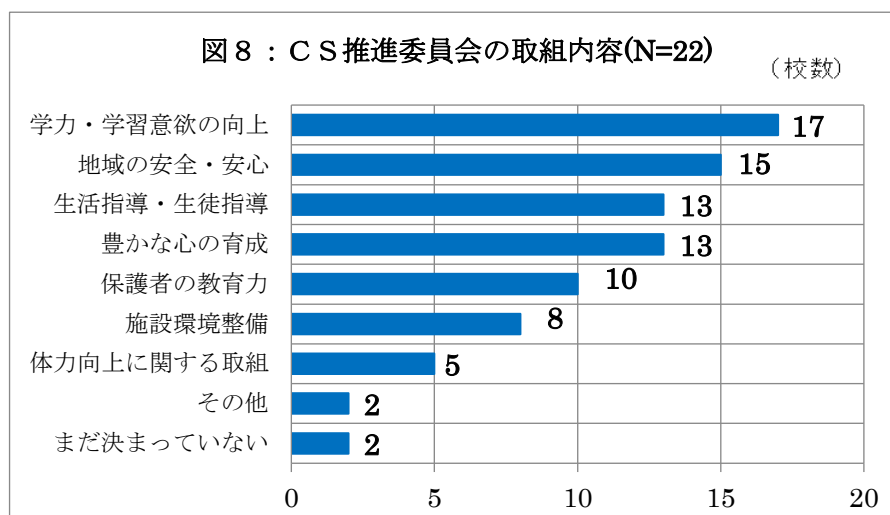
図7はCS推進委員会の取組に生かした（生かそうと思う）内容を割合が高い順に、1年目と2年目の比較を示したものである。それぞれ、母数を分母として、生かした（生かそうと思う）割合を示している。ほぼ同じ傾向であるが、2年目校が「学校と地域が協働する日常的なシステムづくり」が多いのに対して、1年目校は「推進委員会での説明（地域と学校が協働する目的や意義）」が多くなっている。このことから、準備期間である1年目の学校と、2年間の準備を終え、いよいよ本格的なCSの取組になる2年目の学校との課題の違いが見えてきた。

オ. 設問6：今後、どんな研修を取り入れて欲しいか。

※この設問では、前述した各種研修会でのアンケートとほぼ同様な内容であった。

カ. 設問7：CS推進委員会の取組内容は何か。

図8はCS推進委員会がテーマとして取上げて取組む内容を示したものである。学力・学習意欲の向上が最も多く17校である。次いで、地域の安全・安心、生徒指導、豊かな心の育成となっている。保護者の教育力の向上の取組も10校でテーマとしている。



こうしたテーマが、学校だけは困難な教育課題であることや、より豊かな教育活動を行うためのテーマなのか等を教職員とCS推進委員が共通理解することが重要である。その上に立って、教育の協働を進めるシステムが出来上がることを関係者が認識することが求められる。

#### (ア) 具体的な活動（テーマ）の紹介

- ①学校・保護者・地域住民とのふれあいや交流事業（盆踊り大会、清掃等）
- ②地域と協力したあいさつ運動
- ③郷土を大切に作る心を醸成する取組
- ④ノーゲーム・ノーテレビデーの実施、土曜日の活動
- ⑤放課後の学習支援
- ⑥社会体育の統合準備・調整等
- ⑦学校特有の課題への対応のための取組
- ⑧「命」「心」「夢」「親育」のコミュニティによる取組

#### (5) 考察

本事業をとおして、全ての学校の取組への支援が出来たことはこれまでの資料からわかる。「既に理解していた」「既に取組んでいた」ことや、「当初から期待していない」等の、データに出てきていない内容もあり、このデータが全てを表しているとは言えない。しかし、傾向として推測するには十分な結果が得られたと捉えている。CSのテーマ設定と運営システムの定着は時間が必要であるが、この成果を生かした、今後の継続的な研修が求められるであろう。









## 本年度の研修会参加に関するアンケート

別府市立 学校  
 学校長 ○○ ○○

次の設問ごとに、各項目について該当すると思われるところに1を付けてください。  
 ※なお、集計のためシート内の変更をしないようお願いいたします。

設問 1. 各研修会の内容について、貴校コミュニティ・スクール推進委員会や貴校で還元（報告）することができましたか。該当する内容に1を付けてください。

①	還元（報告）することができた	
②	十分ではないが還元（報告）することができた	
③	還元（報告）することができなかった	

設問 2. 各研修会の内容について、貴校コミュニティ・スクール推進委員会の取組に生かせることがありましたか。該当する内容に1を付けてください。

①	生かせることが多くあった	
②	生かせることがあった	
③	生かせることがあまりなかった	
④	生かせることが全くなかった	

※①～②に1を付けた学校は、以下の全ての設問にお答えください。  
 ③～④に1を付けた学校は、設問 5 及び 6 をお答えください。

設問 3. 本年度の研修に参加したことで、どんなことが貴校コミュニティ・スクール推進委員会の取組に参考になりましたか。

自分たちが進めていく上で、今年度の取組や今後の取組に参考になったかどうかの視点でお答えください。	該当するところに1をつけてください。 なった ←→ ならなかった				
	5	4	3	2	1
①	CSの必要性（導入の理由）について				
②	CSの目的や意義について				
③	CS運営のための学校の役割について				
④	CS運営のための推進委員の役割について				
⑤	推進委員（運営協議会）の組織作りや運営体制について				
⑥	CSの効果をあげるための運営の視点について				
⑦	学校教育課題とCSの取組の関係について				
⑧	学校の課題についてCSでの取り組み方について				
⑨	地域のネットワークづくりの大切さについて				

設問 4. この研修会で学んだことを、貴校コミュニティ・スクール推進委員会の取組のどんなことに生かすことができましたか。または、どんなことに生かそうと思っっていますか。

自己評価項目	該当するところに1をつけてください。 生かせた ←→ 生かせない				
	5	4	3	2	1
①	推進委員会での説明（地域と学校が協働する目的や意義）				
②	推進委員会の組織作りや体制づくり				
③	学校内での研修（共通理解）				
④	推進委員会の運営の方法				
⑤	教職員と地域が協働する具体的な活動内容づくり				
⑥	学校と地域が協働する日常的なシステムづくり				
⑦	教職員・推進委員として積極的に協働する意欲向上				

設問 5. 今後、どんな研修を取り入れてほしいですか。

設問 6. 貴校コミュニティ・スクール推進委員会の取組内容について、該当する項目全てに1を付けてください。

①	学力・学習意欲の向上に関する取組				
②	体力向上に関する取組				
③	豊かな心（コミュニケーション力等含む）の育成に関する取組				
④	生活指導・生徒指導に関する取組				
⑤	施設環境整備に関する取組				
⑥	地域の安全・安心に関する取組				
⑦	保護者の教育力に関する取組				
⑧	その他				
⑨	まだ決まっていない				

※具体的な取組内容が決まっている場合は、名称等を記述してください。

--

参考：本年度の研修内容

<p>第1回研修会：○コミュニティ・スクールの意義</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○『学校教育活動のすき間』への地域の教育力の活用を考えよう</li> <li>    テーマ1：学校の教育課題への対応と学校が欲しい地域の教育力</li> <li>    テーマ2：想定される子どもや学校への成果と課題</li> <li>    テーマ3：P D C A サイクルを運営するシステム</li> </ul>
<p>第2回研修会：○コミュニティ・スクールを推進するためのコミュニティ・スクール推進委員の役割と動かすためのシステムは？」～教育課程の理解を通して～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○推進組織におけるP T Aの役割</li> <li>○学校教育の課題に対応する地域の教育資源を探そう</li> </ul>
<p>第3回研修会：○コミュニティ・スクール推進委員会のこれまでの取組とこれからの取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○心を育てるネットワークづくり</li> </ul>
<p>第4回研修会：上人小学校コミュニティ・スクール参観</p>
<p>第5回研修会：石垣小学校コミュニティ・スクール参観</p>

\*ありがとうございました。

資料2 コミュニティ・スクール導入に伴うマネジメント力向上調査研究事業に係る委員名簿

1. 「協育」推進協力者会議委員

委員（11名）	学識経験者（大分大学教授）	中川 忠宣
	別府市退職校長会会長	恒松 栖
	別府市PTA連合会会長	笠木 隆弘
	NPO法人関係者	生重 幸恵
	NPO法人関係者 地域子育て支援関係者	園部 秀靖
		川浪 佳恵
		村田 広子
	上人小学校CS推進委員会委員長	後藤 剛司
	別府市中学校校長会長	高橋 祐二
	別府市小学校校長会長	裕寄 英治
別府市南部公民館長	伊藤 貞之	

2. 研修プログラム検討委員会委員

委員（10名）	学識経験者（大分大学教授）	中川 忠宣
	地域子育て支援関係者	村田 広子
	NPO法人関係者	安達 美和子
		江口 清美
		赤木 萌子
	大平山小学校CS推進委員会委員	和田 京子
	別府市立中学校 CS推進委員会設置校教職員	東 勝也
		大塚 史朗
	別府市立小学校 CS推進委員会設置校教職員	山崎 靖彦
		日名子 典子